

2014年9月期決算説明 及び今期の方針について

株式会社ユーグレナ
2014年11月

【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。



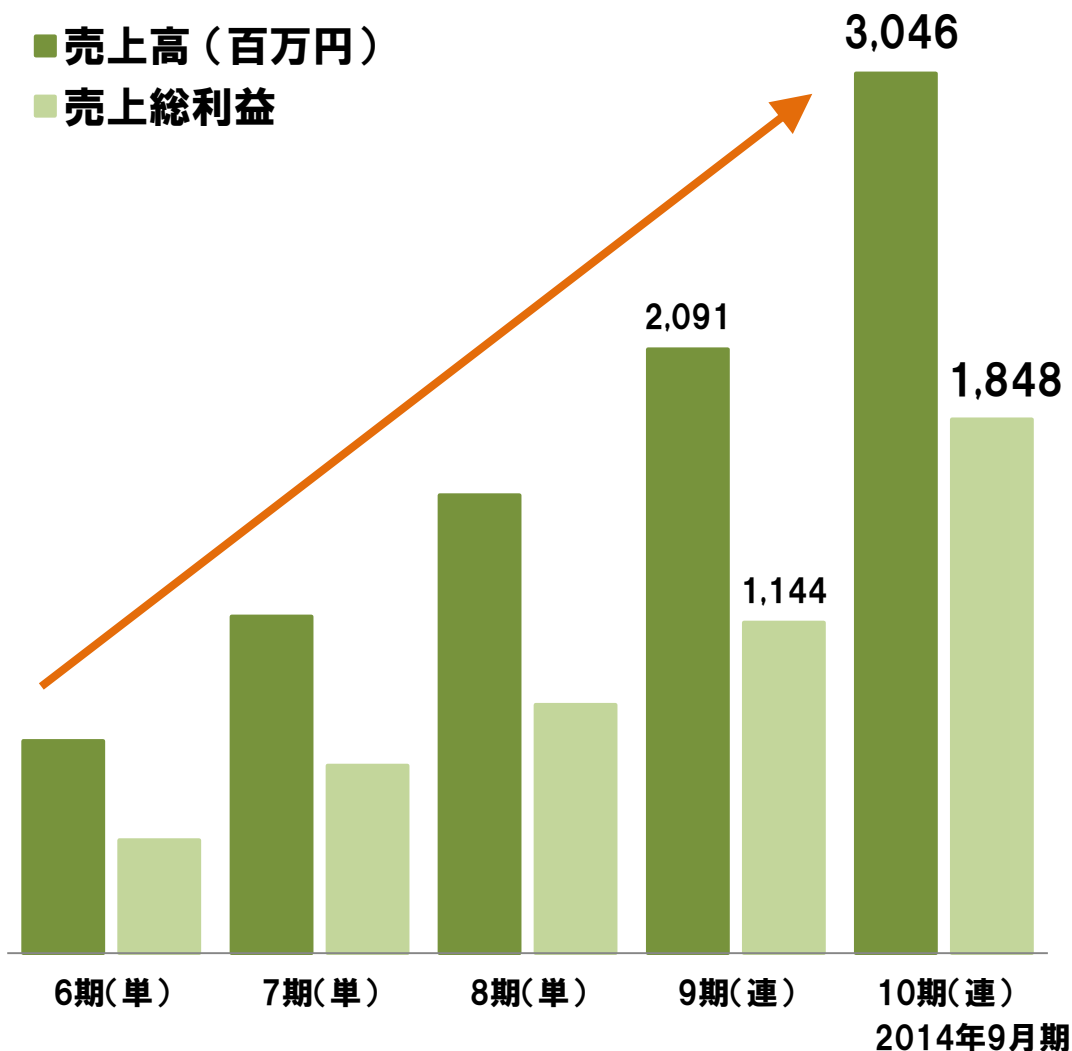
目次

- I. 2014年9月期通期決算概要
- II. 足元の収益成長～ヘルスケア事業
- III. 将来の成長に向けた布石～研究開発進捗
- IV. 今期の方針
- V. 企業理念の実現～バングラデシュにおける取組み
- VI. 【ご参考】株式会社ユーグレナの概要

2014年9月期 通期決算概要

業績推移一売上高、売上総利益

- 売上高（百万円）
- 売上総利益



売上高は
前期比45%増、
10期連続増収

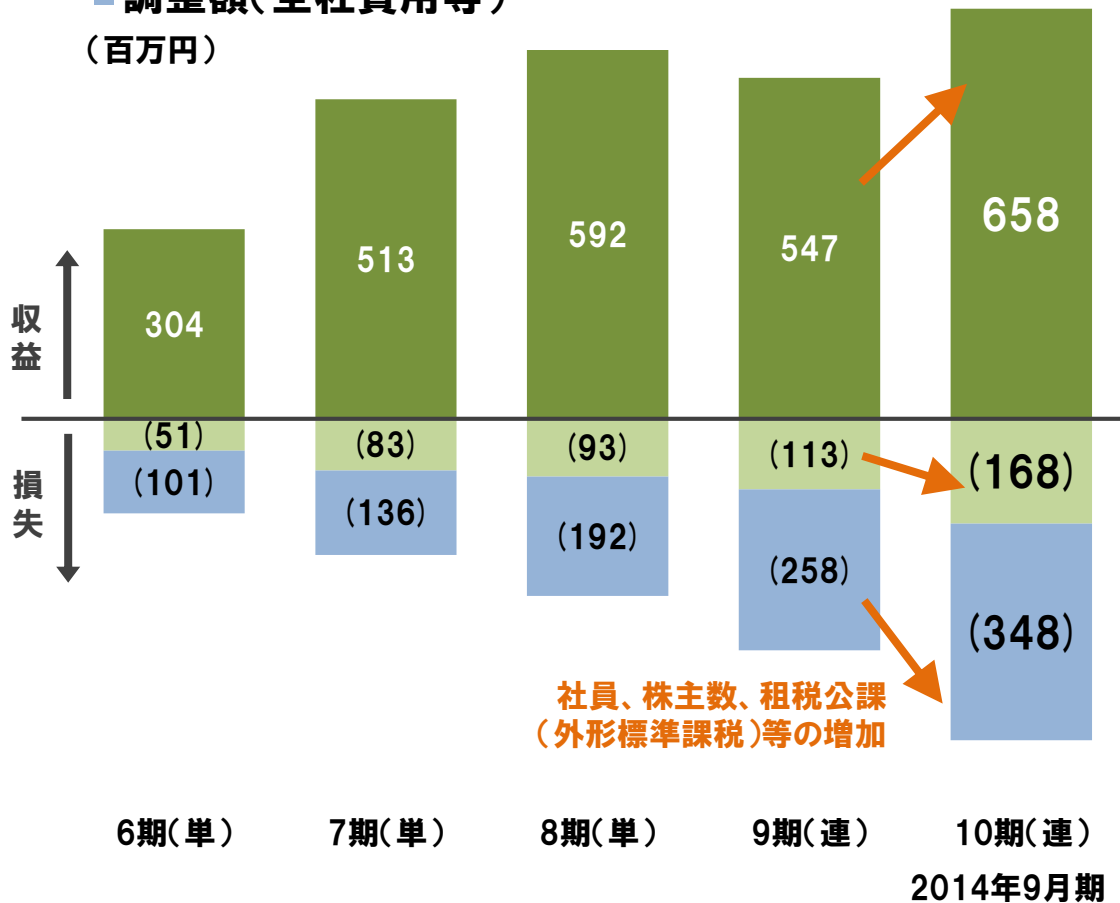


注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります

業績推移—セグメント別営業損益

- ヘルスケア事業
- エネルギー・環境事業
- 調整額(全社費用等)

(百万円)



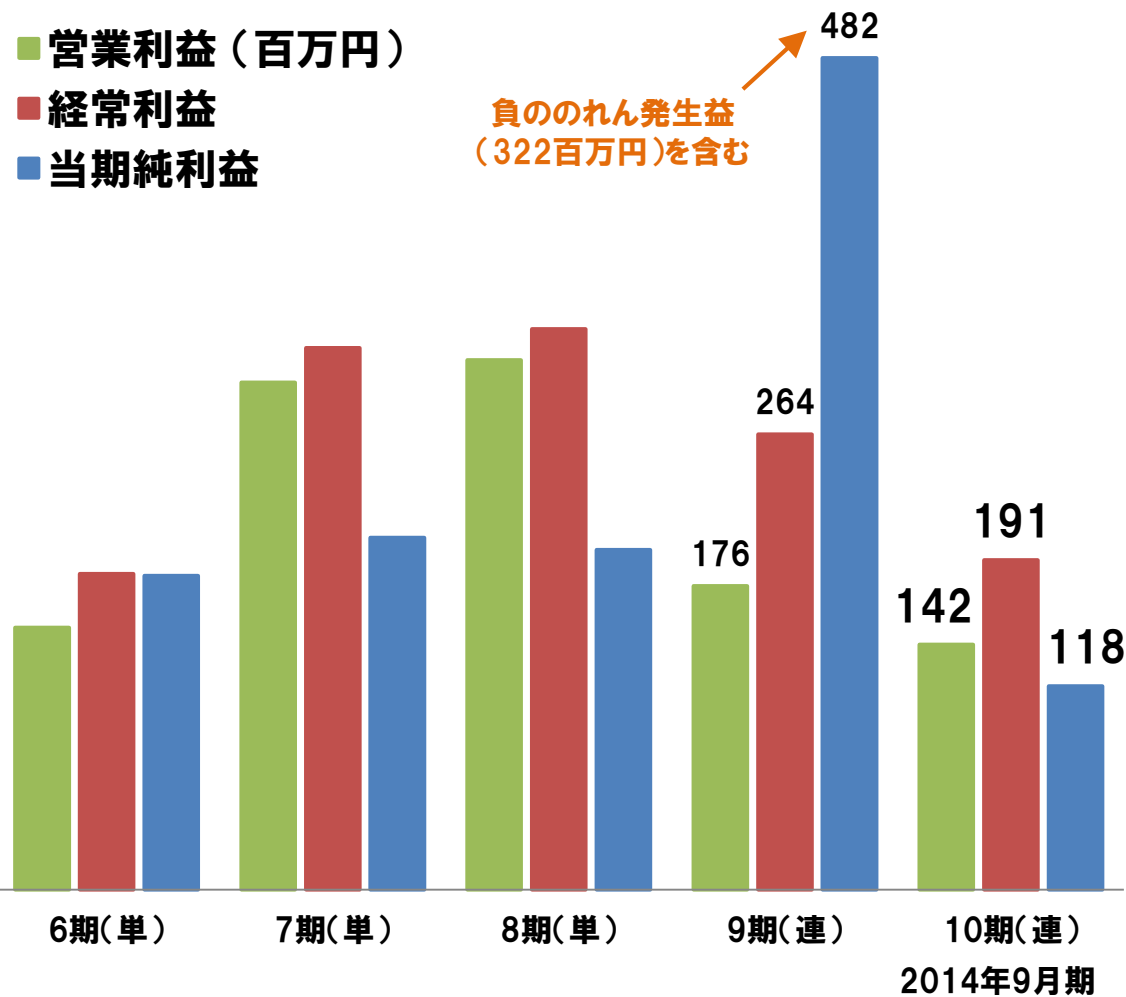
ヘルスケア事業は販売費が大幅に増加したものの、
営業利益ベースで**増益**確保

研究開発への積極投資継続に加えて、
会社規模拡大に伴い
全社費用が大幅増加



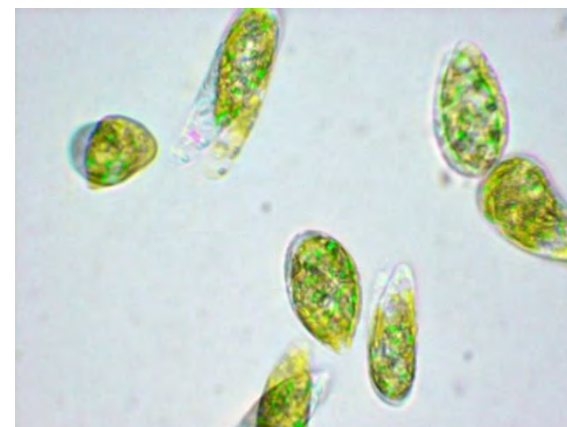
注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります

業績推移—営業利益、経常利益、当期利益



公募増資に伴う
株式発行費用等の
影響で、経常利益は
前期比で減少

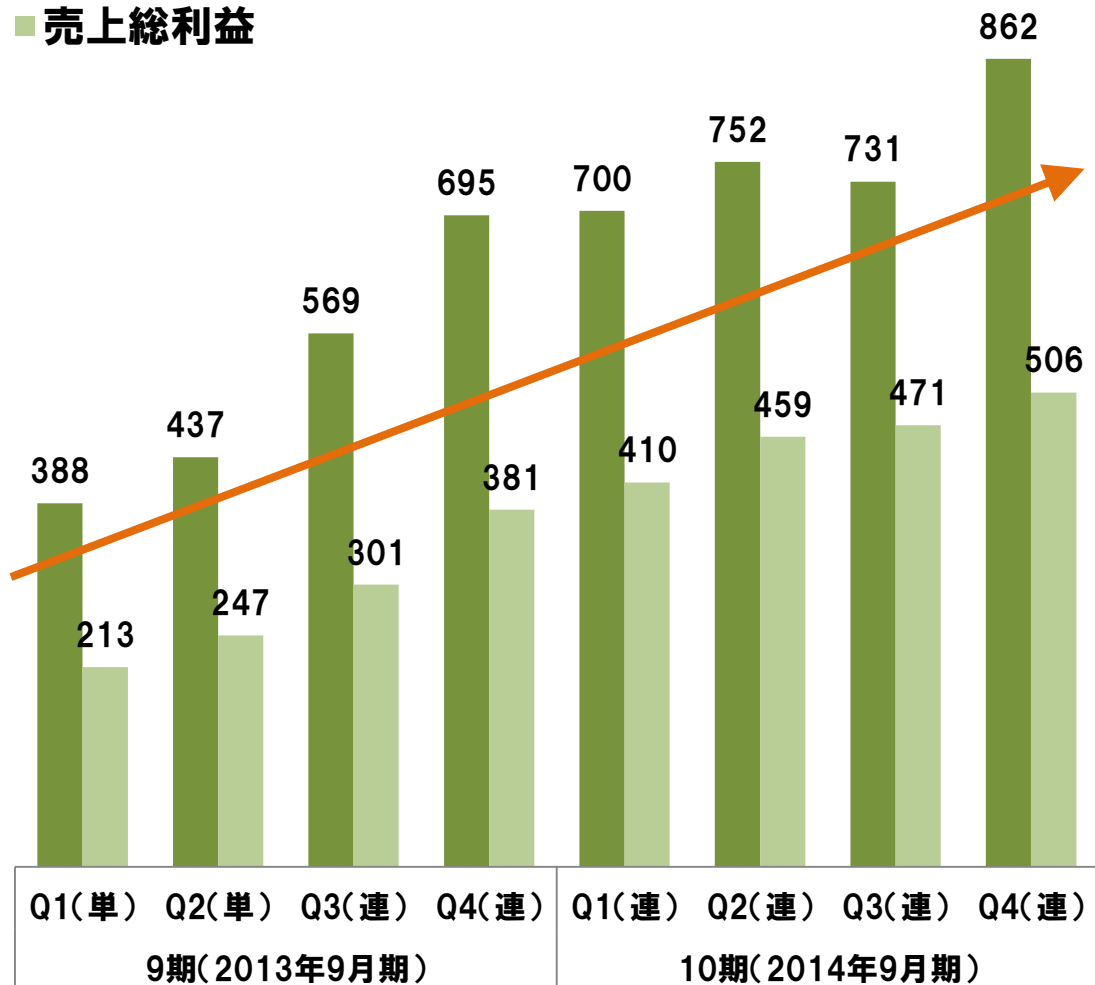
当期純利益の減少は
前期の一時的要因
(負ののれん)が背景



注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります。また2013年9月期の連結当期純利益には、八重山殖産(株)の子会社化に伴い計上した負ののれん発生益322,212千円が含まれております。

四半期推移一売上高、売上総利益

- 売上高 (百万円)
- 売上総利益



注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります

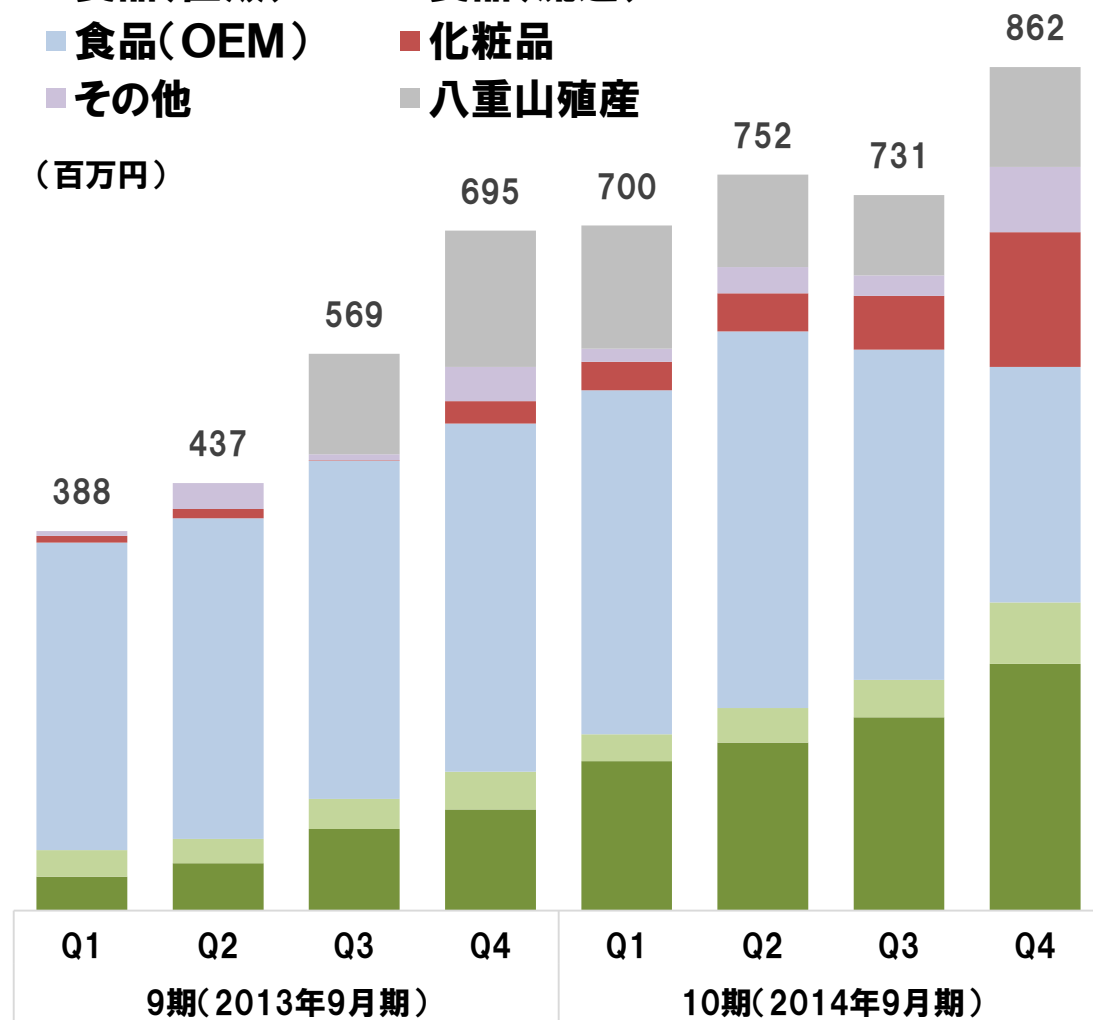
消費税引上げの影響でQ3は減収となったが、直販の順調な成長と化粧品OEM新規ローンチ(euga)により、Q4は従来通りの増収基調を回復



四半期推移—事業別売上高

- 食品(直販)
- 食品(流通)
- 食品(OEM)
- 化粧品
- その他
- 八重山殖産

(百万円)



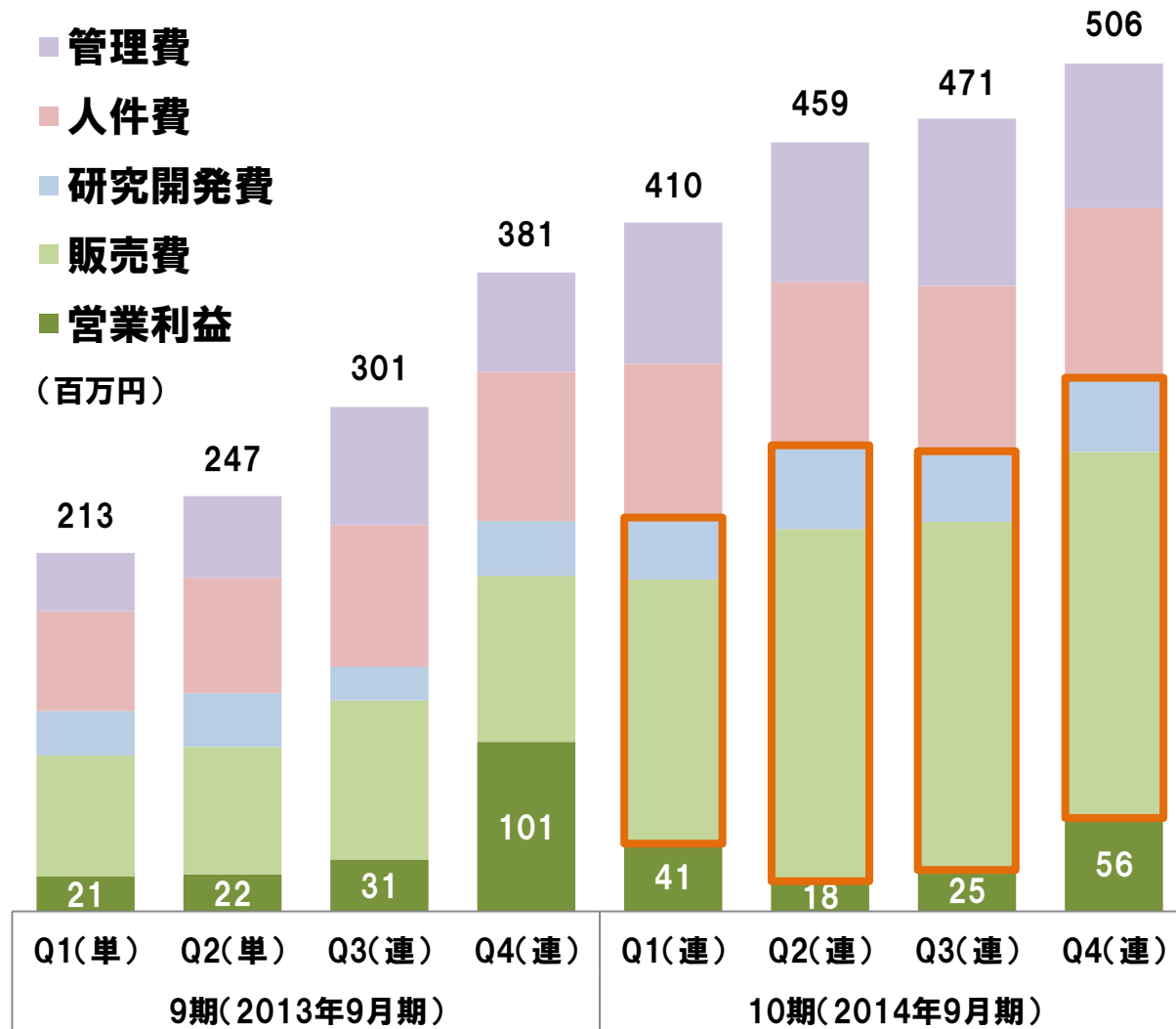
中期経営計画通り、
戦略的に食品OEM商品数
を絞り込み、
直販を継続成長

化粧品OEMは新規展開を
開始するなど、
収益構造の入れ替えを
順調に実施中



注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります

四半期推移一売上総利益、販管費、営業利益



売上総利益は
着実に成長

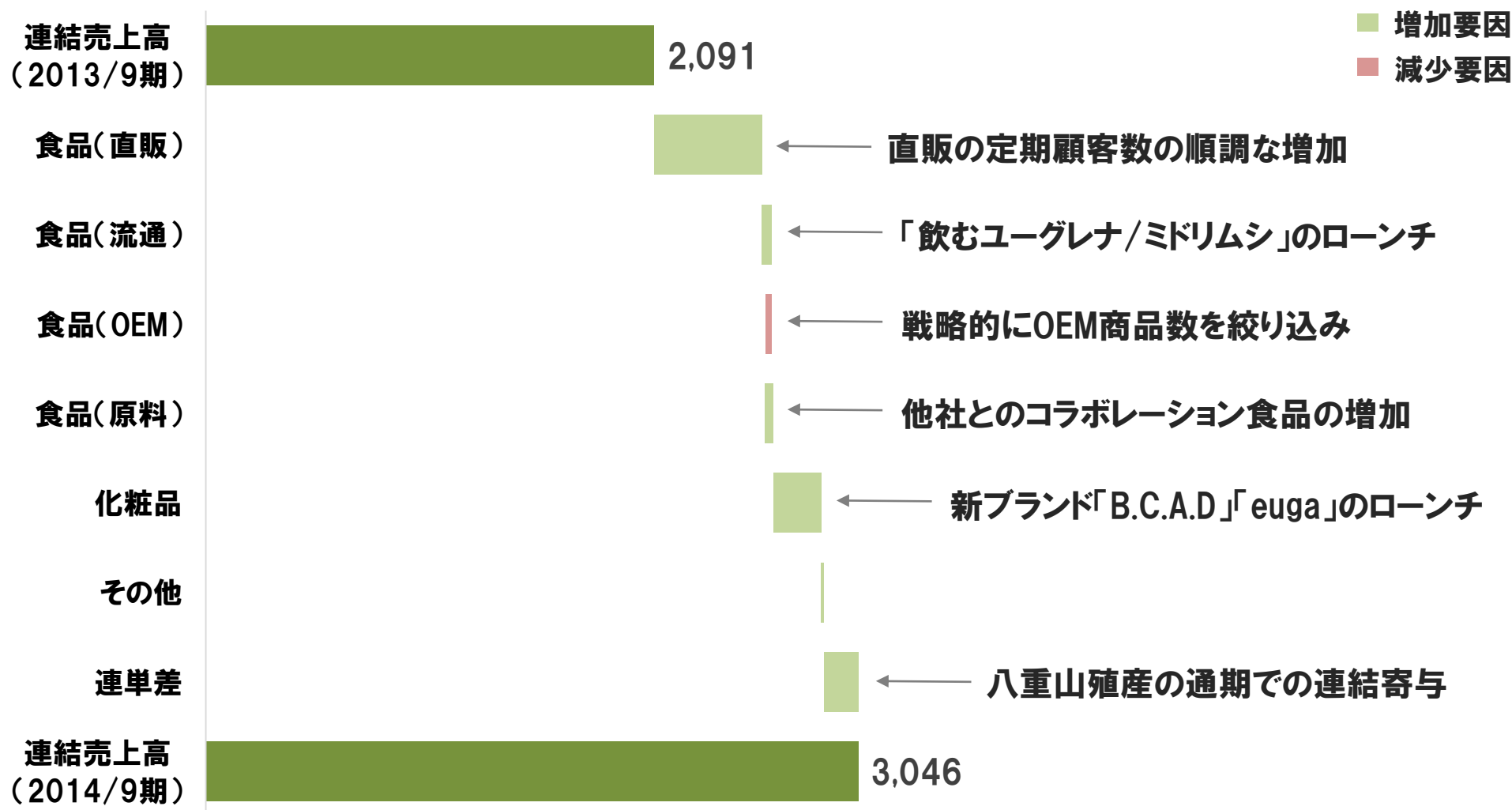
広告宣伝費
・研究開発費投資を
継続したため、
Q4営業利益は
前期比で減少



注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります

要因分析—2013年9月期と2014年9月期の売上高増減

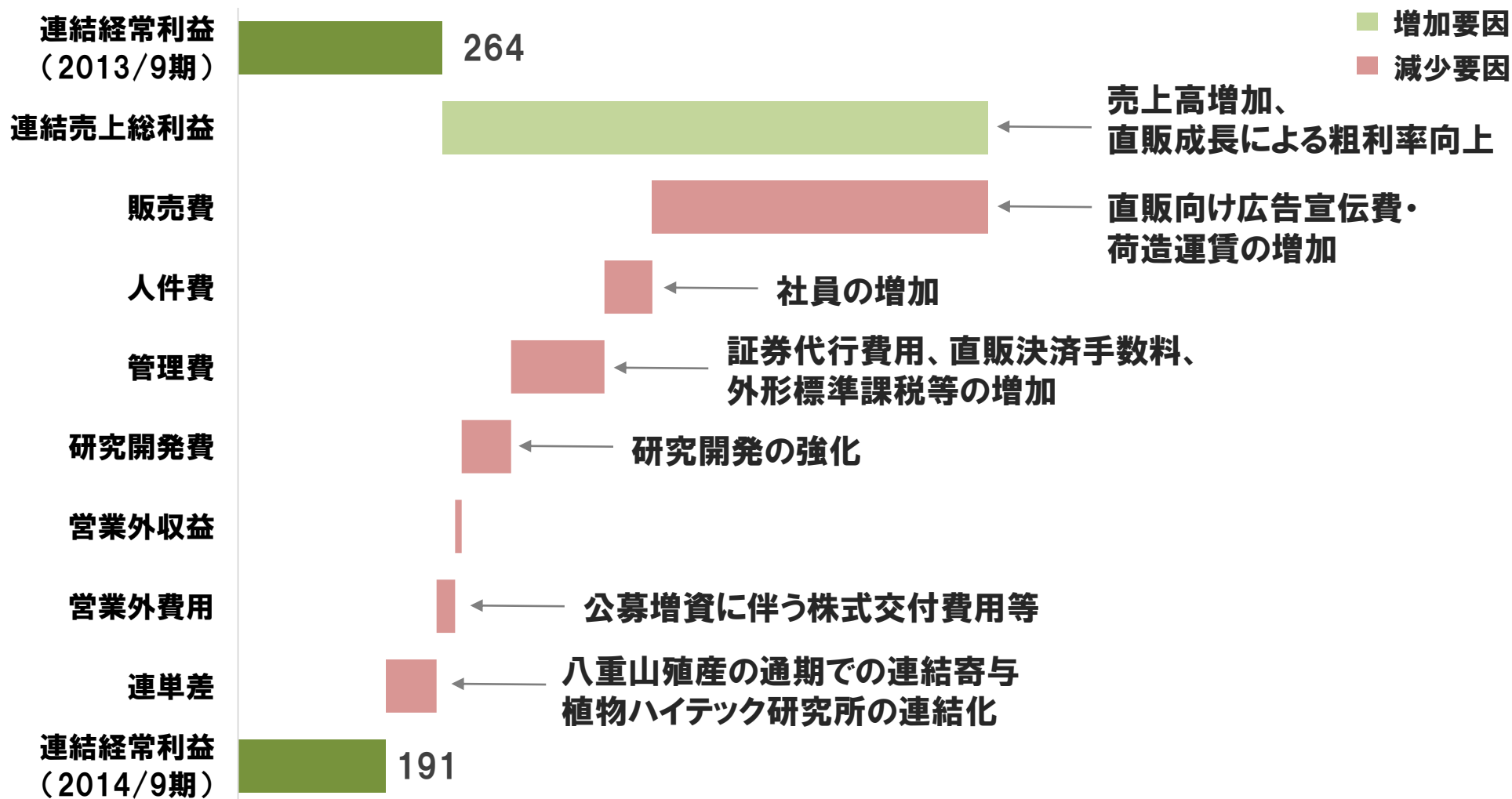
食品(直販)の順調な成長と化粧品の新規ローンチが売上増を牽引



注: 連結業績ベース(八重山殖産(株)の業績は2013年9月期Q3から反映)での業績変動要因分析になります(単位は百万円、赤色は前期比減少項目)

要因分析—2013年9月期と2014年9月期の損益増減

直販成長・研究開発投資と企業規模の拡大が費用増の主要因

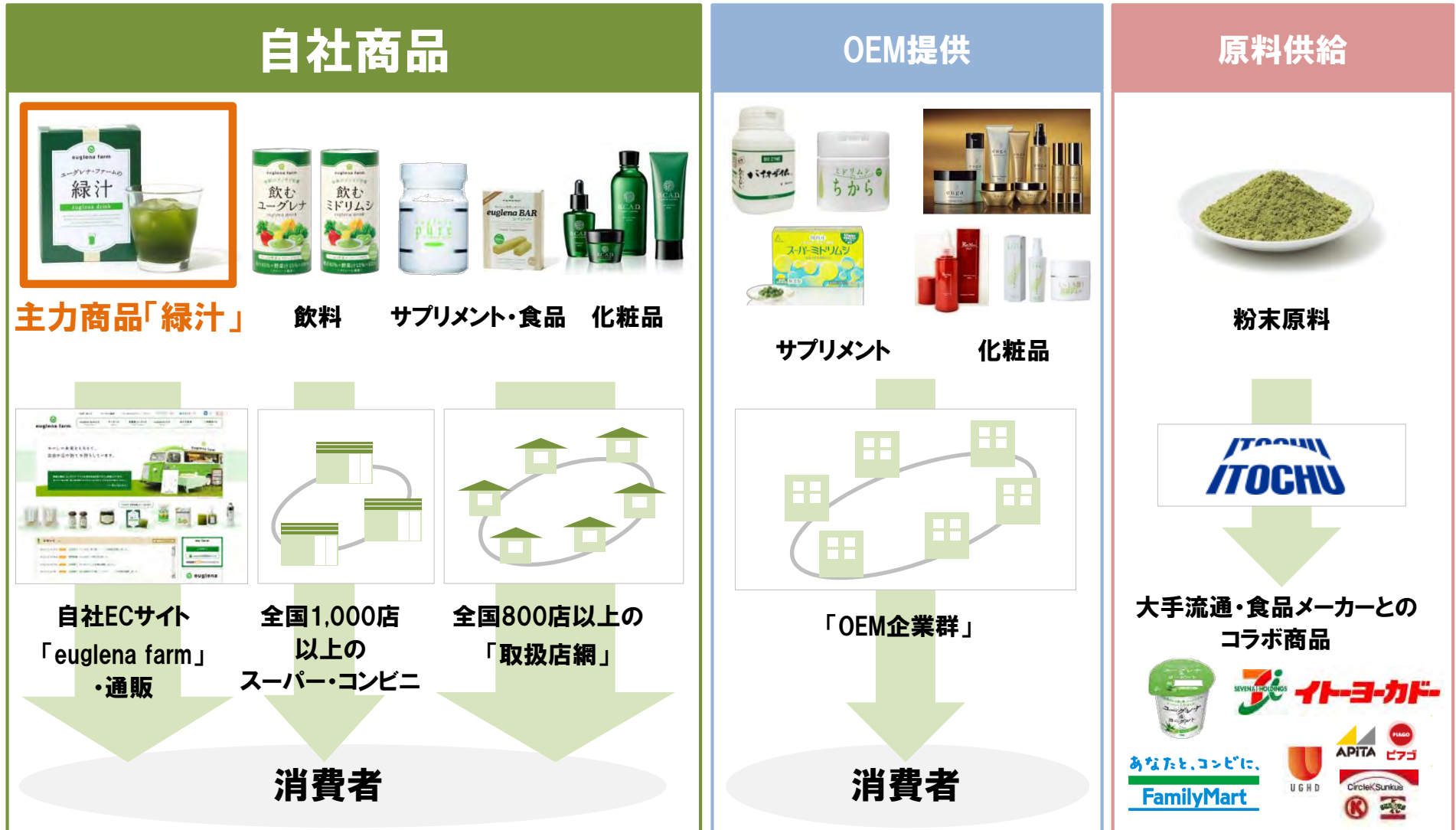


注: 連結業績ベース(八重山殖産(株))の業績は2013年9月期Q3から反映)での業績変動要因分析になります(単位は百万円、赤色は前期比減少項目)

足元の収益成長 ～ヘルスケア事業

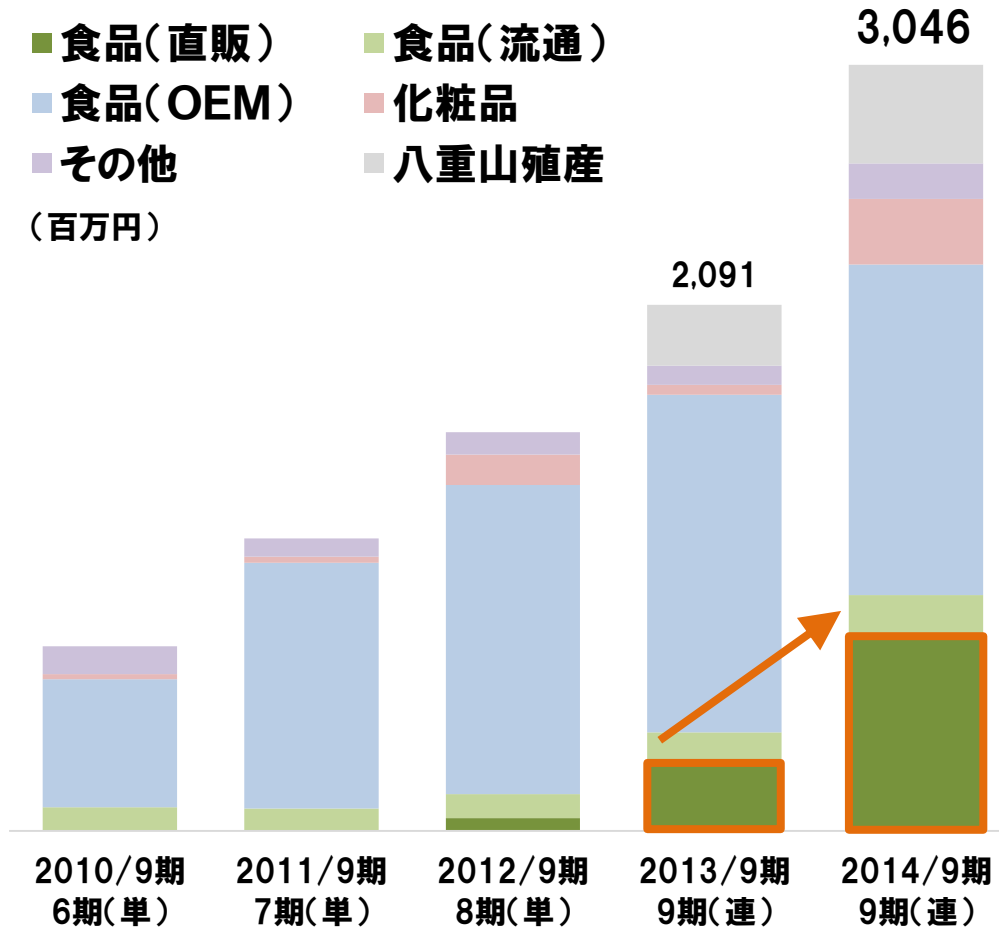
ヘルスケア事業のビジネスモデル

粗利率と成長性の高い自社製品(特に食品直販)の強化に注力



ヘルスケア事業の売上構造の推移

- 食品(直販)
 - 食品(流通)
 - 食品(OEM)
 - その他
 - 化粧品
 - 八重山殖産
- (百万円)



食品(直販)の売上が
前年同期比3倍!

構成比も25%を突破し、
粗利率向上を牽引!

粗利率

54%

55%

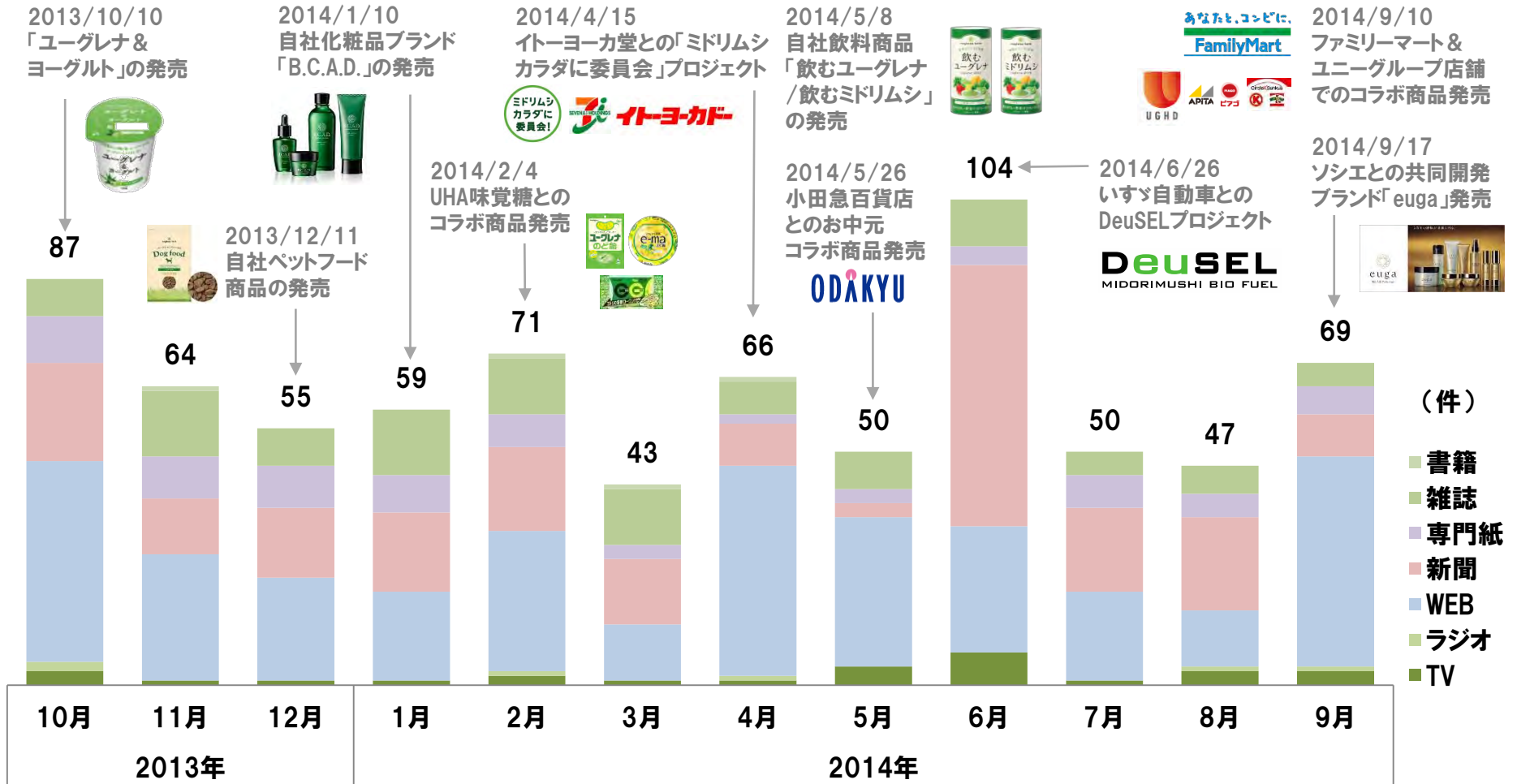
61%



注: 上記は当社全体の売上高であり、「その他」にはエネルギー・環境事業に属する売上高が若干含まれております。八重山殖産の売上高は連結調整後の連結寄与分を2013年9月期Q3から計上しております。

ユーグレナの高いメディア露出力

様々な新規展開と市場認知度向上策により、毎月多数のメディアへの露出を実現。効果的かつ効率的な広告宣伝に寄与



2013/10/10
「ユーグレナ&
ヨーグルト」の発売



2014/1/10
自社化粧品ブランド
「B.C.A.D.」の発売



2014/4/15
イトーヨーカ堂との「ミドリムシ
カラダに委員会」プロジェクト



2014/5/8
自社飲料商品
「飲むユーグレナ
/飲むミドリムシ」
の発売



2014/9/10
ファミリーマート&
ユニグループ店舗
でのコラボ商品発売

2013/12/11
自社ペットフード
商品の発売



2014/2/4
UHA味覚糖との
コラボ商品発売



2014/5/26
小田急百貨店
とのお中元
コラボ商品発売



2014/6/26
いすゞ自動車との
DeuSELプロジェクト



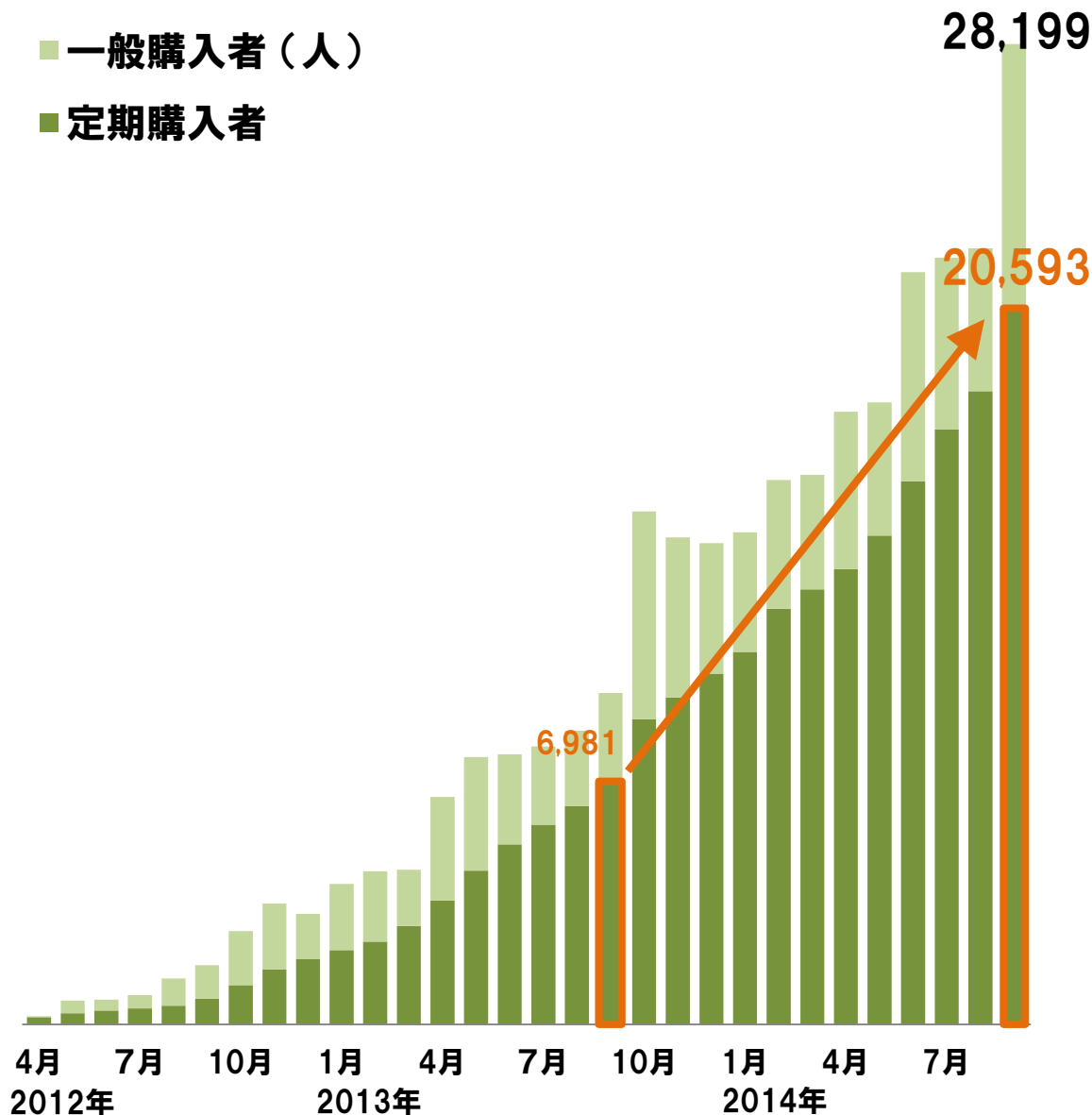
2014/9/17
ソシエとの共同開発
ブランド「euga」発売



- (件)
- 書籍
 - 雑誌
 - 専門紙
 - 新聞
 - WEB
 - ラジオ
 - TV

食品(直販)→直販顧客数推移(2014年9月期)

- 一般購入者(人)
- 定期購入者



**定期購入者数は
1年で約3倍、**

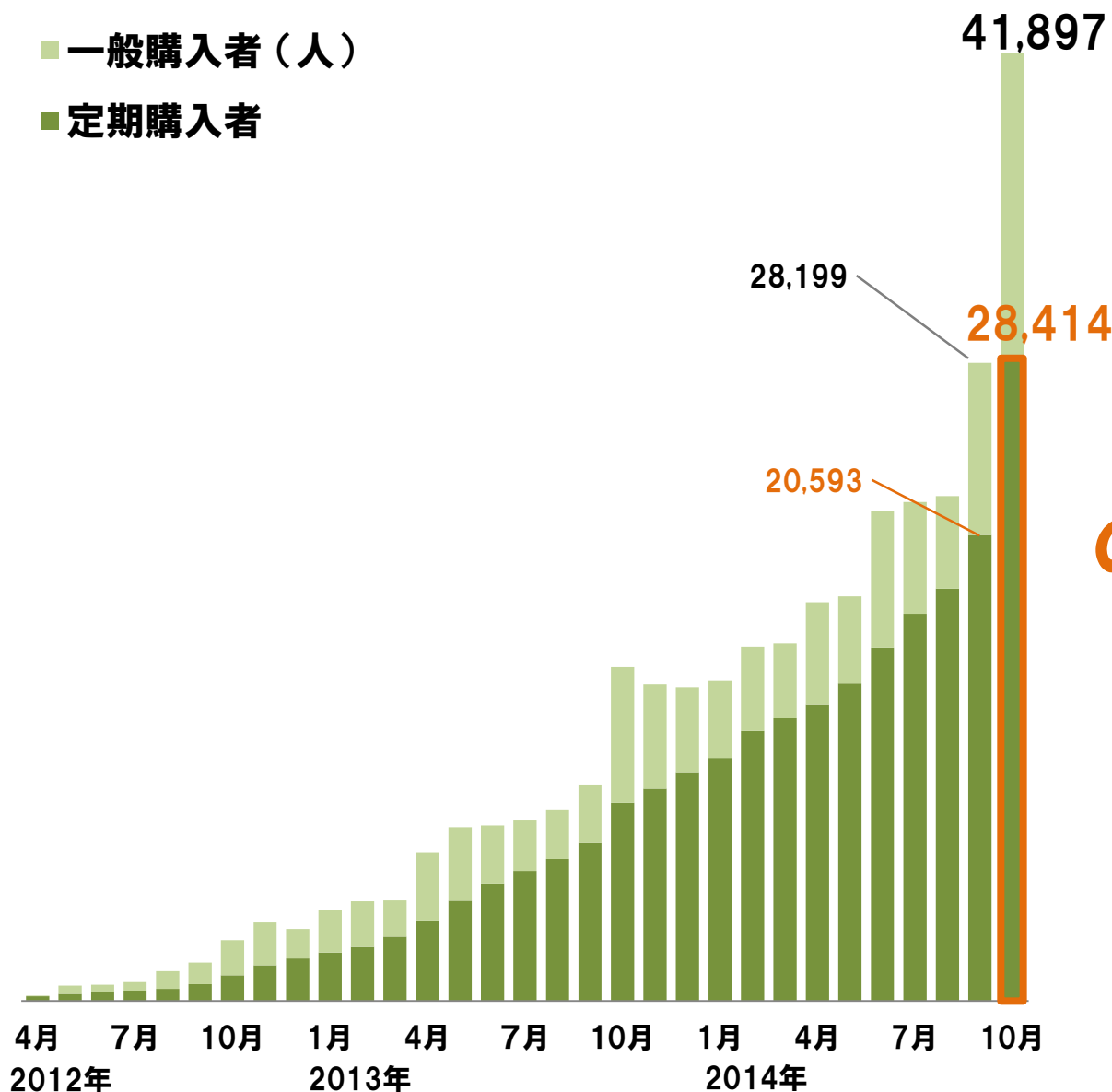
**開設から2年半で
2万人を突破!**



注:購入者数は「緑汁」と「ユーグレナ・プラス」が対象で、化粧品「B.C.A.D.」は含んでおりません

食品(直販)一直販顧客数推移(2014年10月)

- 一般購入者(人)
- 定期購入者



2014年10月は
一般・定期とも
過去最大
の月間成長を記録！

第11期は好調に
スタートを切った

注: 購入者数は「緑汁」と「ユーグレナ・プラス」が対象で、化粧品「B.C.A.D.」は含んでおりません

食品(自社流通)―自社ブランド飲料「飲むユーグレナ／ミドリムシ」

2014年5月にローンチした自社ブランド飲料商品「飲むユーグレナ／ミドリムシ」は好調な滑り出し。販売店舗数は1,000店を突破し、今期更に拡大していく見込み

商品名:	「飲むユーグレナ」(東日本) 「飲むミドリムシ」(西日本) (内容は同じ)
名称:	果実・野菜ミックスジュース
内容量:	195g
価格:	259円(税込)
販売箇所(※):	成城石井、ナチュラルローソン、 北野エース、紀ノ国屋、阪急オアシス、 クイーンズ伊勢丹、サミット、とりせん オークワ、マルアイ、マミーマート、 他、各地のスーパーマーケット等 (計1,000店舗以上) および自社ECサイト「euglena farm」



東日本



西日本

※: 上記以外に、イトーヨーカ堂・ファミリーマート(関東)・サークルKサンクス(関西)においても数量限定での販売を実施し、好評のうちに販売終了

食品(原料)―大手流通・食品メーカーとのコラボ商品の大規模展開

大手流通・食品メーカーと相次いでコラボ商品を展開、ユーグレナの認知度向上とメディア露出の増加を実現



ミドリムシ
カラダに
委員会!

【第2弾】'14/10/13販売開始@160店

参加メーカー(18社):江崎グリコ、お好みフーズ、ポッカサッポロF&B、日本製麻、ケンコーマヨネーズ、ケンミン食品、永谷園、伊藤園、カルビー、ジャパンフritos、三幸製菓、クリート、ダイコー食品、タカノフーズ、テーブルマーク、セリア・ロイル、モントワール、理研ビタミン



【第1弾】'14/4/15販売開始@165店

参加メーカー(8社):カゴメ、ロッテ、カルビー、ブルボン、永谷園、岩塚製菓、理研ビタミン、モントワール



あなたと、コンビに、

FamilyMart

'14/9/16販売開始@11,000店

オリジナル商品3種類、その他商品5種類



ODAKYU

'14/6/11販売開始

お中元商品12種類



'14/9/16販売開始@6,505店

オリジナル商品1種類、その他商品4種類



おいしさ やさしさ

UHA味覚糖

'14/2/10販売開始@全国

オリジナル商品3種類



'13/10/15

販売開始
@全国



注: 上記店舗数は、発表時点の各社の取扱可能店舗数で、実際の導入店舗数・期間は地域・時期によって異なる

化粧品—自社ブランド「B.C.A.D.」およびOEM向けブランドの拡充

3月に展開開始した自社ブランド「B.C.A.D.」は取扱店が100店舗を突破
10月からはソシエとの共同開発ブランド「euga」も展開開始

ユーグレナ加水分解エキス「リジューナ™(Rejuna)」

紫外線(UV)に対する
防御力の強化

皮膚線維芽細胞の
増殖効果

コラーゲンの合成を
促進させる働き

痛んだ髪への
修復効果

商品開発



自社ブランド「B.C.A.D.」

2014/3/1販売開始@自社ECサイト、ショップ
チャンネル、百貨店・エステ・美容室等(累計取扱
店舗数113店舗)



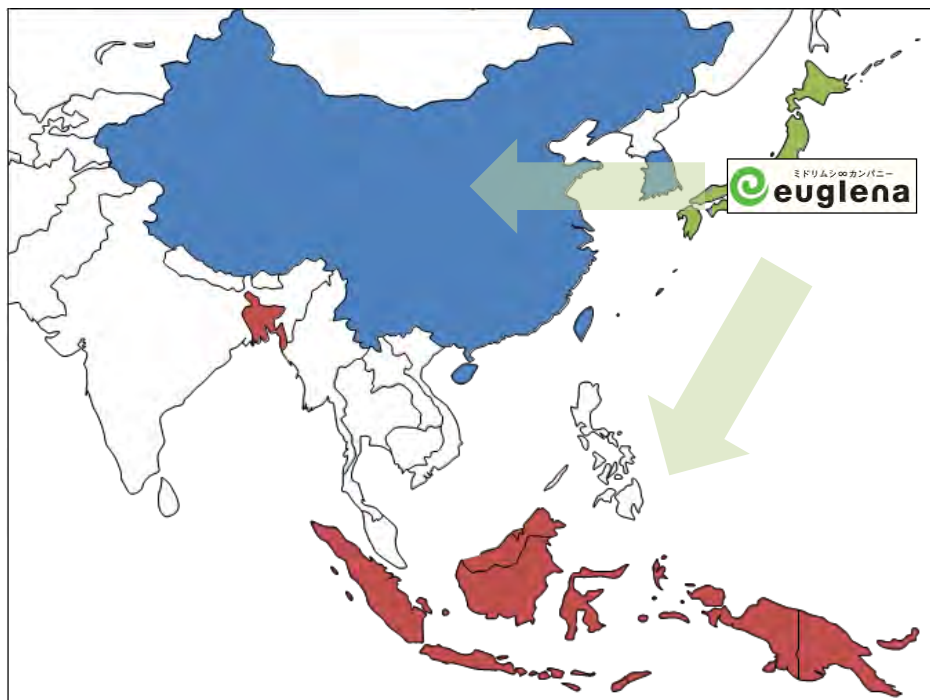
ソシエとの共同開発ブランド「euga」(OEM)
エステティック専用プレミアムライン

2014/10/1販売開始@ソシエ62店舗



OEM向けブランド

食品(海外)—海外市場での本格展開



- 東アジア(中国)
中国においてユーグレナの
「新食品原料」登録が完了
2014年9月に初の出荷を実施
今期中に本格展開を開始予定

- 東南アジアイスラム国
ユーグレナおよびクロレラが
「ハラール認証(※)」を取得
今期よりバングラデシュでの商業展開
に向けた市場調査を開始

※ハラール認証とは…

イスラム教では豚やアルコールを食用にすることを禁じており、「イスラム教の定める適正な方法で処理された食品である」ことを証明した食品に対し外装に認証マークを表示。なお、ハラールとはイスラム教において行動を律する概念のこと

将来の成長に向けた布石 ～研究開発進捗

バイオジェット燃料開発への取組み—政府支援プロジェクトへの参画

1

経済産業省：NEDO「戦略的次世代バイオマスエネルギー利用技術開発事業」

テーマ：微細藻由来のバイオジェット燃料製造に関する要素技術の研究開発
パートナー：JX日鉱日石エネルギー株式会社、株式会社日立製作所、慶應義塾大学



継続

屋内人工光照射下における生産性(培養速度38g/(m²・d))と油脂含有率(30%)の目標値を達成
当初の政府支援期間を満了したが、研究の進捗により2年間の延長が決定

テーマ：遺伝子改良型海産珪藻による有用バイオ燃料生産技術開発
パートナー：高知大学、京都大学、東京大学

移行

珪藻を1トンスケールの培養槽で培養し、回収物から燃料のテスト生産を実施完了
期間満了により2014年3月に政府支援は終了、研究開発はパートナー等と継続

2

文部科学省：JST「戦略的創造研究推進事業」

テーマ：形質転換ユーグレナによるバイオ燃料生産基盤技術の開発
パートナー：島根大学(研究代表)、近畿大学

進捗

「ユーグレナへの外来遺伝子導入方法」と「ユーグレナの形質転換体」に関する2特許を出願済み

バイオジェット燃料開発への取組みー次世代航空機燃料イニシアティブ

2014年5月に航空機燃料のサプライチェーンに関係する企業等を構成員とする「次世代航空機燃料イニシアティブ」が発足し、当社も参画

次世代航空機燃料イニシアティブ(INAJ)について

名称: 次世代航空機燃料イニシアティブ
(Initiatives for Next Generation Aviation Fuels (INAF))

運営委員: 東京大学、ボーイング社、日本航空(株)、日本貨物航空(株)、全日本空輸(株)、成田国際空港(株)、石油資源開発(株)

構成員: 委員33団体・オブザーバー6団体

時期: 2014年5月に設立、7月より本格的な検討に着手

活動内容: 次世代航空機燃料の我が国におけるサプライチェーン(SC)の確立に向けたロードマップを、2015年4月までに策定する予定

分科会: 以下の4つの分科会を設けて、ロードマップを策定:
①都市ゴミを原料とするSC
②藻が産生する油脂を原料とするSC
③それ以外を原料とするSC
④法制度

構成員

【委員】

株式会社IHI
伊藤忠商事株式会社
独立行政法人 宇宙航空研究開発機構
川崎重工株式会社
Green Earth Institute株式会社
独立行政法人 産業技術総合研究所
JFEエンジニアリング株式会社
シェルジャパン株式会社
住友商事株式会社
石油資源開発株式会社
○全日本空輸株式会社
双日株式会社
千代田化工建設株式会社
○東京大学
東洋エンジニアリング株式会社
株式会社豊田中央研究所
○成田国際空港株式会社

【オブザーバー】

農林水産省
経済産業省
国土交通省

日揮株式会社
日揮ユニバーサル株式会社
日本アジア投資株式会社
一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
○日本貨物航空株式会社
○日本航空株式会社
株式会社ネオ・モルガン研究所
野村リサーチ・アンド・アドバイザー株式会社
日立造船株式会社
フェニックスビジネス株式会社
○ボーイング社
三井造船株式会社
株式会社三井物産戦略研究所
株式会社三菱総合研究所
三菱重工業株式会社/三菱日立パワーシステムズ株式会社
株式会社ユーグレナ
(○印・下線を付した企業等が運営委員)

環境省
防衛省
独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

いすゞ自動車とのDeuSEL[®](デューゼル)プロジェクトの共同発表

6月25日、いすゞ自動車と共同でDeuSEL[®](デューゼル)プロジェクトの開始を発表。各種メディアから幅広い注目を集めた



ミドリムシで
バスが走る!?

世界初0.05%の藻が仲間。
特別の発酵でおなじみの発酵培養システム(学名:ユーグレナ)をつくらったバイオ・ディーゼルバスが走る。
世界にやさしい 次世代環境型の未来を想像して。
いすゞ自動車とユーグレナの共同開発「DeuSEL(デューゼル)プロジェクト」が始まりました。
いすゞ自動車は、毎日多くさんの乗客をお送りする会社として、
より環境負荷の少ない地球社会を築いていくために、
ユーグレナ社と、世界で唯一のミドリムシ 国外大規模培養技術を持つ会社として、
ミドリムシを原料としたバイオ・ディーゼルの実用化を推進させるために、
第一歩として7月1日から、DeuSELバスは
神奈川県横浜市のいすゞ工場と海蔵倉庫前を巡回シャトルバスとして試験運行を始めます。
ミドリムシが地球を救う。いすゞ・ユーグレナの未来にご期待ください。

DeuSEL
MIDORIMUSHI BIO FUEL

www.deusel.jp

ISUZU x euglena

DeuSELプロジェクトの一面広告
(2014年6月27日日経新聞朝刊)

DeuSELプロジェクトに関するいすゞ自動車との共同記者会見(2014年6月25日)

DeuSEL® プロジェクトー共同プロジェクトにおける取り組み

いすゞ自動車と当社で共同研究および試験運行を開始

DeuSEL

MIDORIMUSHI BIO FUEL

1

次世代バイオ・ディーゼル燃料の
実用化に向けた共同研究を開始

次世代バイオ・ディーゼル燃料の実用化に
向けて、2018年度までの技術確立を目指す

役割分担

ISUZU × **euglena**

次世代ミドリムシ
燃料の試験走行
・性能試験等

次世代ミドリムシ燃料
の研究開発・製造

2

DeuSELバスの定期運行を開始
(いすゞ藤沢工場～湘南台駅間)

世界で初めて開発に成功した、ミドリムシを原料
とするバイオ・ディーゼル燃料(従来型)を使用

7/1開始

運行バス: いすゞ自動車(株)の社員・来客
用シャトルバス

区間: 神奈川県藤沢市のいすゞ工場
～湘南台駅

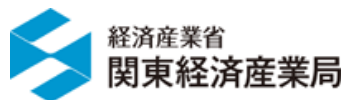
期間: 毎営業日、22便(期限なし)

使用燃料: DeuSEL®(ミドリムシを原料とす
る従来型バイオ・ディーゼル燃料
を混合、強制規格に適合)



ユーグレナ特有成分「パラミロン」の研究開発への取り組み

高度培養生産技術の開発



経済産業省の平成24年度戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)に採択され、現在も継続中。パラミロンの含有率増加及び単離抽出・精製により、有用な糖類の生産技術の開発を目指すとともに、新規食材としての機能性・生理活性を培養細胞実験・動物実験等により評価

大腸がん抑制効果

兵庫県立大学環境人間学部先端食科学研究センターと当社は、ユーグレナの特有成分であるパラミロンに大腸がん抑制効果を有することが研究によって判明し、その結果に関して2013年10月8日発刊の「Food & Function」にて掲載(特許出願:2011年9月30日)



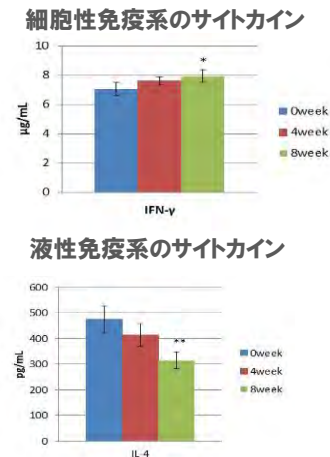
褥瘡(床ずれ)の予防・改善



パラミロンを用いた「褥瘡(読み:じょくそう)(床ずれ)を予防・改善する新規外用剤の開発」が、公益財団東京都中小企業振興公社が行う「平成25年度連携イノベーション促進プログラム助成事業」に採択(2014-2015年の2年間、助成予定額19百万円)。尚、パラミロンフィルム of 創傷治癒促進効果は2013年5月2日に特許出願済み

免疫バランス調整機能

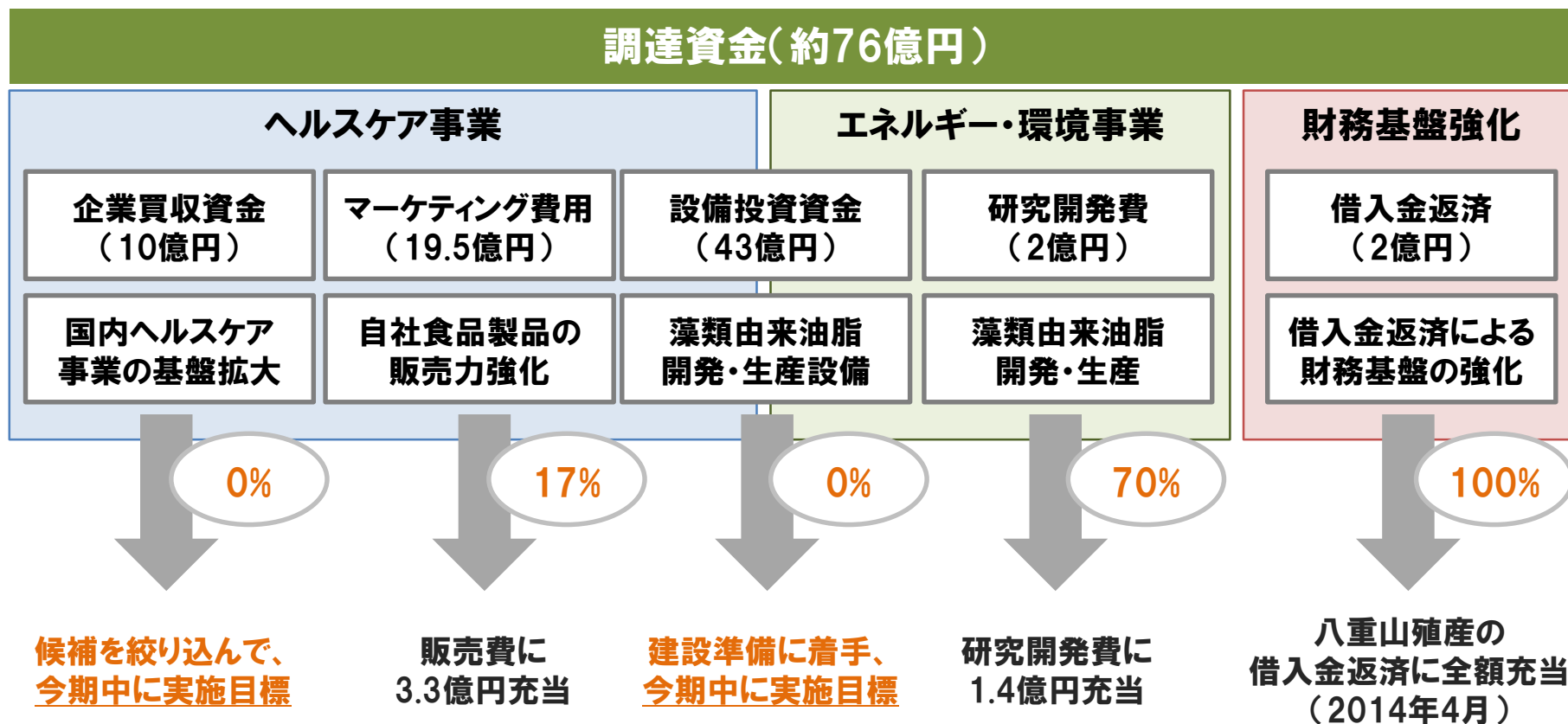
パラミロンの継続摂取によって、細胞性免疫と液性免疫のバランスが調整され、どちらかに偏ることにより起こる疾患の発生を予防できる可能性が示唆されたことから、免疫バランス調整機能に関して、2014年4月8日に特許を出願



今期の方針

公募増資調達資金の充当状況(2014年9月期)

2013年12月実施の公募増資で調達した約76億円は、マーケティング費用等に順調に充当。設備投資とM&Aは今期中の進捗を見込む



今期の方針

★…ピックアップ

食品(直販)

- ★ 今期中に定期顧客数5万人を獲得
- ★ TV広告(インフォーマーシャル)の開始
- 広告宣伝の最適化、決済コストの削減

食品(流通)

- ★ M&Aによる販売チャネルの上積み
- 「飲むユーグレナ」の大手スーパー・コンビニでの販路開拓

食品 (OEM・その他)

- ★ 武田薬品工業向けOEM供給の開始(「緑の習慣[®]」)
- 大手流通とのコラボレーション継続
- 中国での事業体制確立と本格的販売開始

化粧品

- ★ 商品ラインアップの拡充(クレンジング等)
- B.C.A.D.取扱店舗の更なる拡大
- 2018年に売上高50億円を達成へ

研究開発 (ヘルスケア)

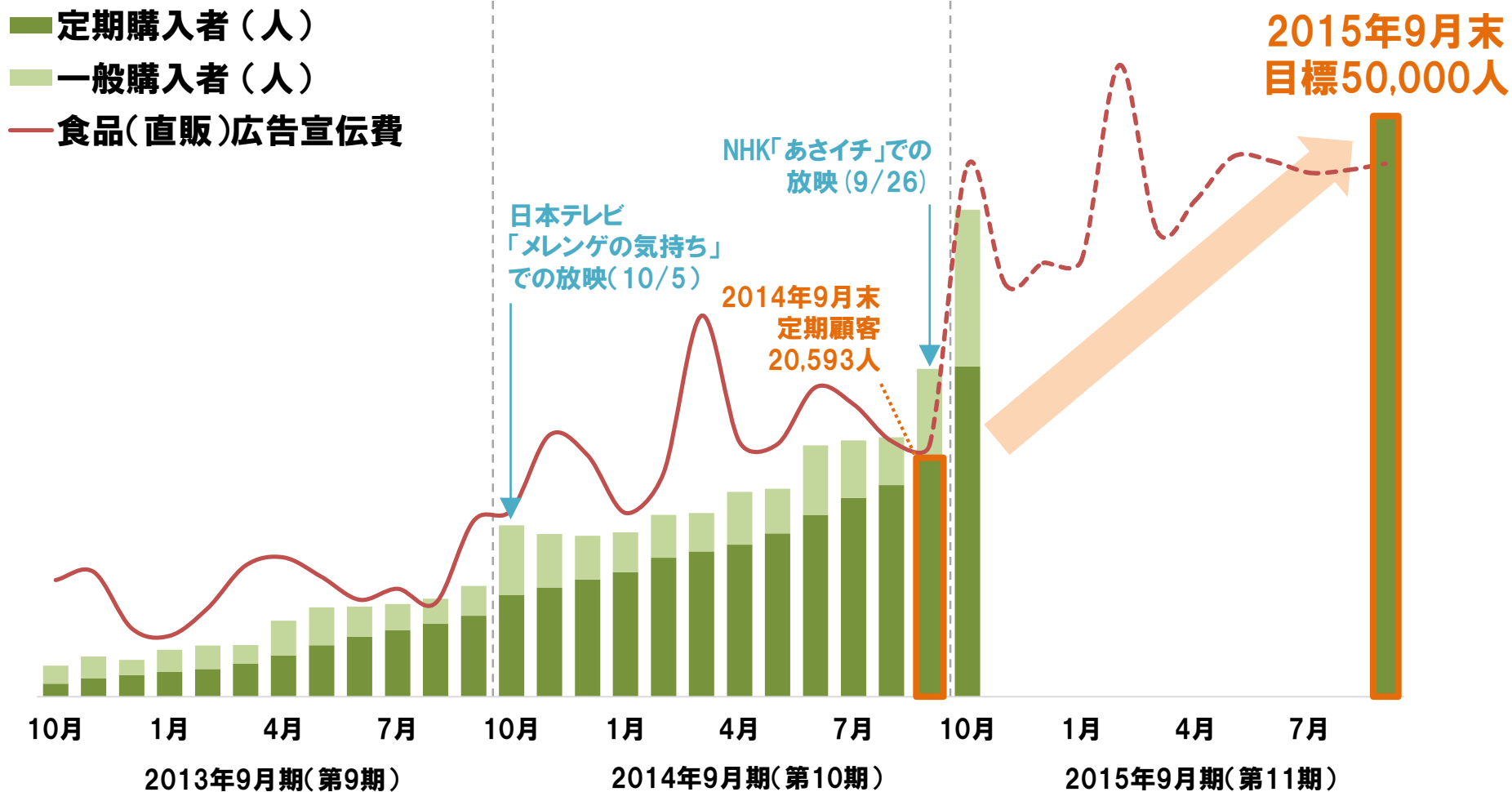
- ★ 武田薬品工業と医薬領域への参入可能性検証
- ミドリムシおよびパラミロンの更なる機能性解明
- 新規素材の研究開発

研究開発 (バイオ燃料)

- ★ 内閣府「革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)」への参画
- ★ 藻類由来油脂開発・生産設備の実証プラント建設の準備
- 海外でのミドリムシ培養の準備

ヘルスケア事業—「広告×広報」による直販事業の成長加速化

インフォーマーシャルの開始等の広告宣伝の強化および消費者訴求力の高いメディア露出の増加により、定期顧客数5万人の達成を目指す



注:購入者数は「緑汁」と「ユーグレナ・ピュア」が対象で、化粧品「B.C.A.D.」は含んでおりません

ヘルスケア事業—TV広告(インフォーマーシャル)開始

10月15日よりCS放送でのTV広告(インフォーマーシャル)を開始



「街頭インタビュー」篇



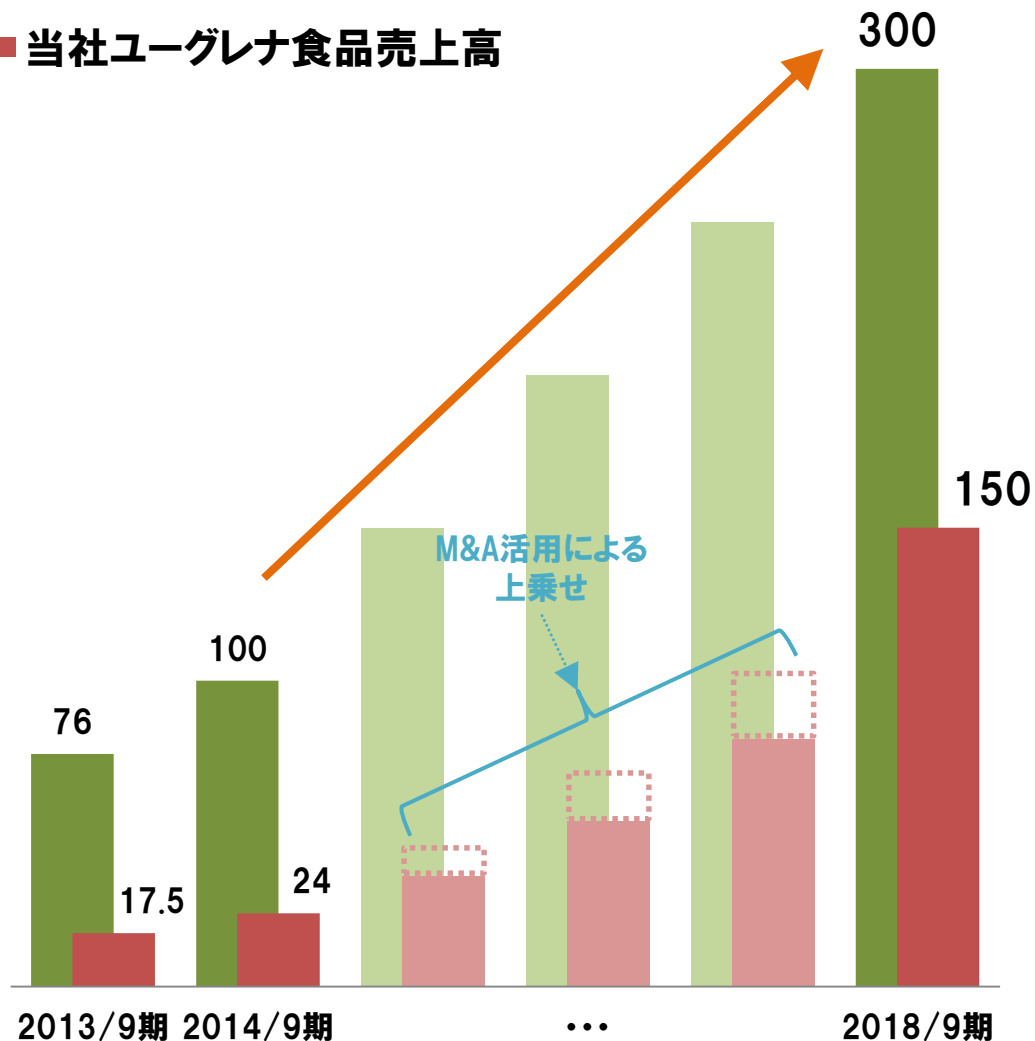
「年輪太り」篇



ヘルスケア事業—中期経営目標

■ ユーグレナ食品市場規模

■ 当社ユーグレナ食品売上高



2018年までに
市場規模を300億円、
へ拡大し、
M&Aも活用しながら
当社売上高150億円
の実現を目指す



ヘルスケア事業—自社化粧品ブランド「B.C.A.D.」の商品拡充

2014年3月の販売開始以降、順調に販路を拡大し、累計取扱店舗数は110店を突破。12月19日にはクレンジング商品を販売開始



【クレンジング】
B.C.A.D.
ウォームクレンジング
ジェルバーム(120g)
3,300円(税別)



【洗顔】
B.C.A.D.
ディープモイスター
フォーム(120g)
3,300円(税別)



【化粧水】
B.C.A.D.
スキントリートメント
エッセンス(120ml)
5,500円(税別)



【美容液】
B.C.A.D.
インナーリフト
セラム(28ml)
7,700円(税別)



【クリーム】
B.C.A.D.
シルキーエマルジョン
クリーム(28g)
7,700円(税別)

12/19新発売

武田薬品との共同プロジェクト「緑の習慣[®]」と包括的提携契約

10月16日(木)、武田薬品工業とユーグレナ配合製品の開発可能性を共同で検討する包括的提携契約の締結を発表。同日に同社ECサイト向けOEM商品「緑の習慣[®]」も供給開始

1

包括的提携契約の締結

ユーグレナ(または特有成分であるパラミロン)配合の新たな製品の開発可能性を共同で検討

共同検討



医薬品の研究開発
経験・ノウハウ



ユーグレナ・パラミロン
機能性探索知見

2

健康補助食品

タケダのユーグレナ「緑の習慣[®]」

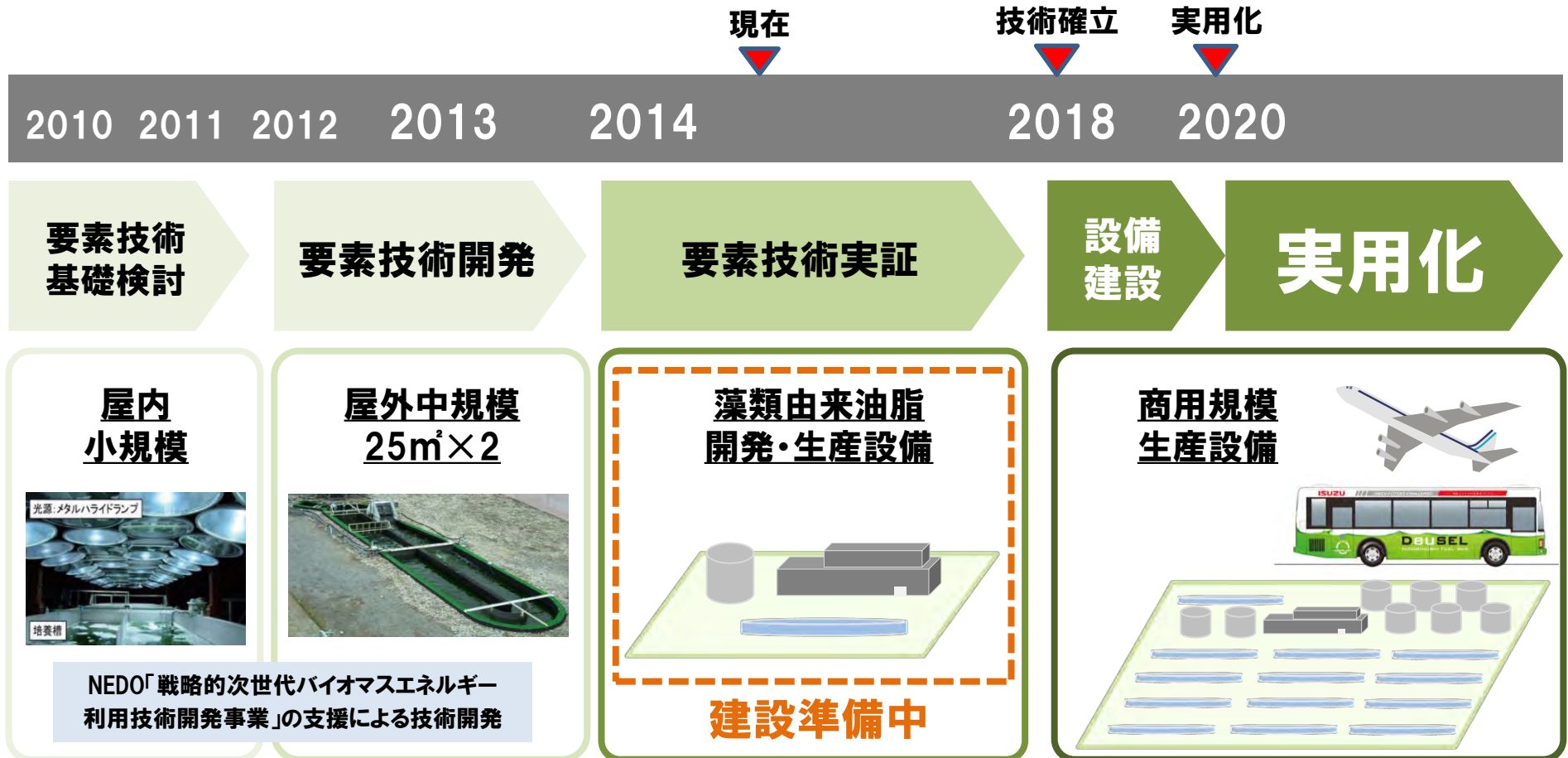
共同プロジェクト第一弾としてOEM供給。
「タケダ通販ショップ」でのみ取り扱う、
通信販売限定商品

OEM供給



研究開発—バイオ燃料開発への取組み

2018年の技術確立に向けて順調に進捗。実証プラントの建設に向けた準備を進めており、今期中の着工を目指す



※ NEDO(独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)
新エネルギー成果報告会資料(2012年)を参照

政府支援プロジェクトへの参画ー内閣府「ImPACT」

内閣府「革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)」の「セレンディピティの計画的創出による新価値創造」の研究開発機関に選定

本プログラムの概要

プログラム名: セレンディピティの計画的創出による新価値創造

プログラム・マネージャー: 合田圭介(東京大学大学院理学系研究科 教授)

プログラム概要:

- 従来技術では統計データに埋もれていた細胞の個性を発見する**セレンディピター**の開発
- セレンディピターを用いた「**超効率バイオ燃料開発**」および「**高精度血液検査技術開発**」の実証評価

研究開発期間: 2014年10月～2019年3月

当社の役割:

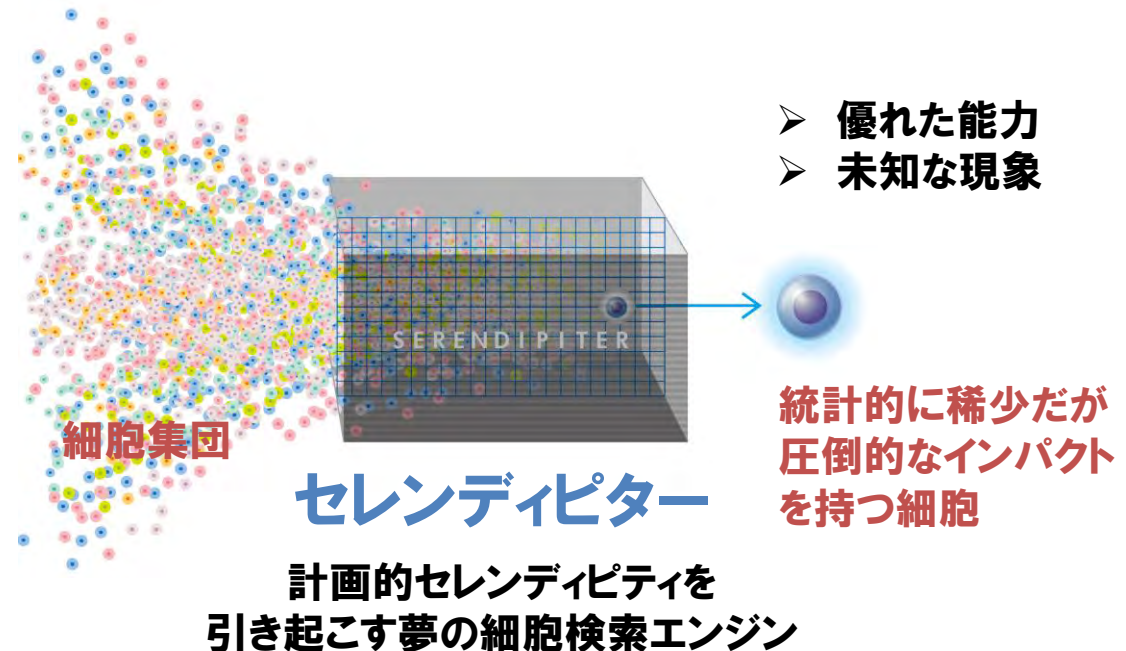
- 細胞に対して刺激を与えて様々な個性をもつ細胞を創りだす方法の開発
- それぞれの細胞の個性を光技術で見極める方法の開発

他の参加機関: 東京大学、京都大学、大阪大学、千葉大学、慶応大学、カリフォルニア大学、コロンビア大学など

承認日: 2014年10月30日

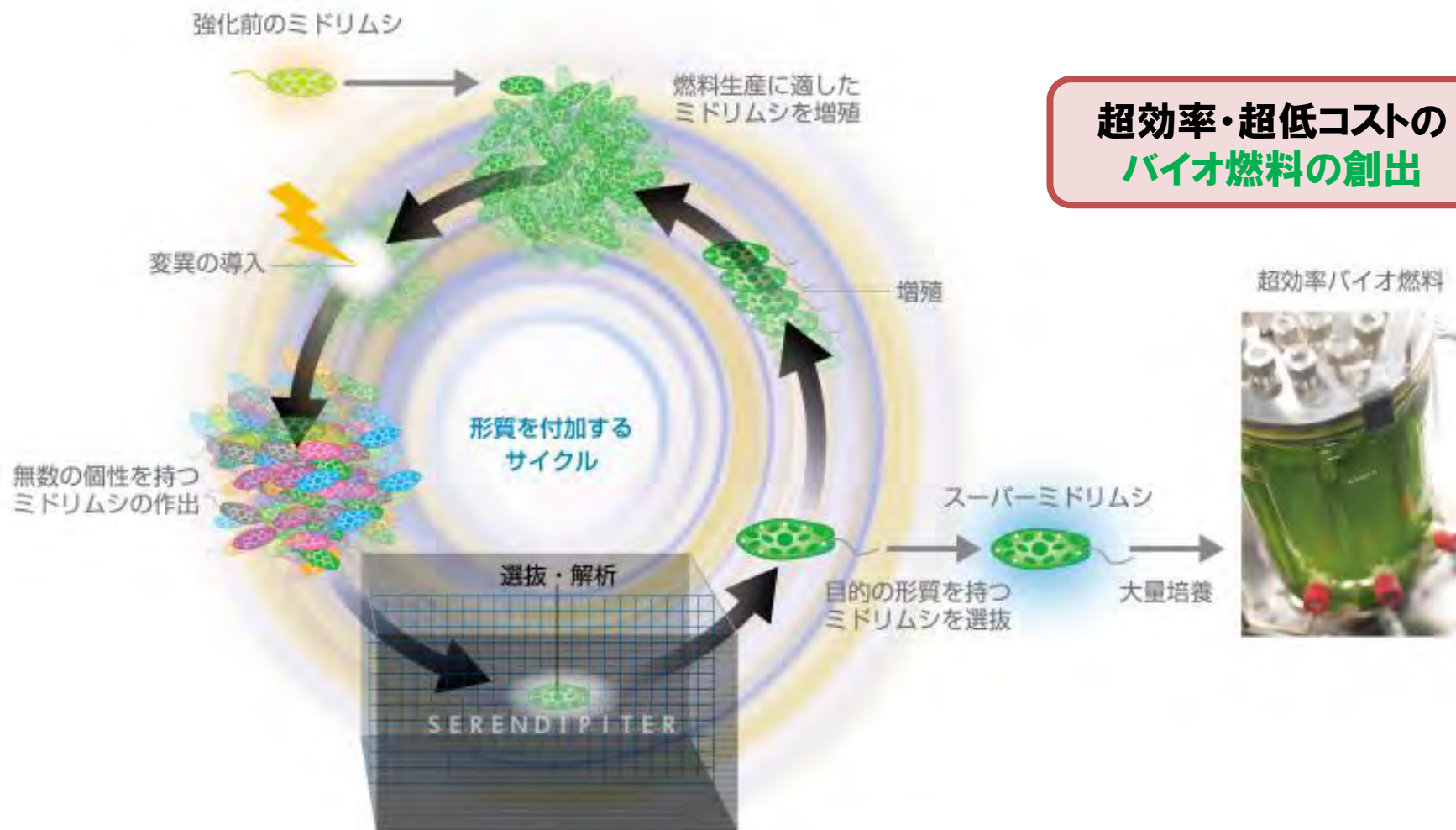
本プログラムにおける開発技術のイメージ

ライフサイエンスにおける「砂浜から一粒の砂金」を高速・正確に発見・解析し、**セレンディピティ(偶然で幸運な発見)**を計画的に創出する革新的基盤技術



政府支援プロジェクトへの参画—内閣府「ImPACT」

当社は、燃料生産に適したスーパーミドリムシの選抜を行ない、超効率・超低コストのバイオ燃料の創出等を目指す



2015年9月期(第11期)の連結業績予想

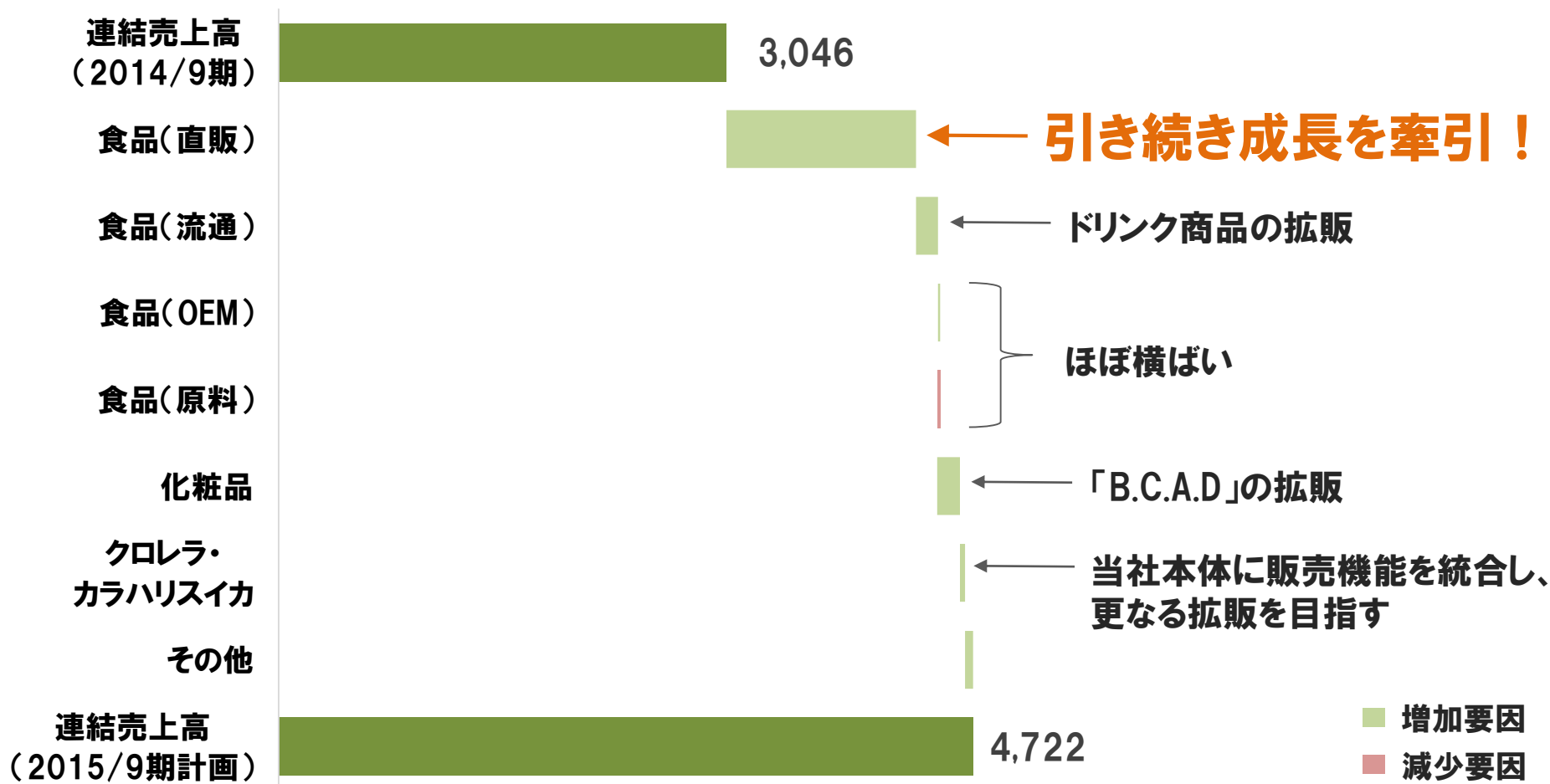
今期も**5割**増収。前期同様、創出される利益は全て将来投資へ。

	2014年9月期 実績	2015年9月期 業績予想	対前期 増減率	
売上高	3,046百万円	4,722百万円	55.0%	直販成長の継続、 粗利率は改善 利益は 広告宣伝費、 研究開発費 として投資
営業利益	142百万円	77百万円	△45.3%	
経常利益	191百万円	256百万円	34.0%	助成金収入 の増加等
当期純利益	118百万円	175百万円	48.8%	

注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります。また2013年9月期の連結当期純利益には、八重山殖産(株)の子会社化に伴い計上した負ののれん発生益322,212千円が含まれております。

要因分析—2014年9月期と2015年9月期(計画)の売上高増減

今期も食品(直販)が成長を牽引する一方、販路拡大・商品拡充による食品(流通)・化粧品の収益寄与も見込む



注: 八重山殖産および植物ハイテック研究所の連結寄与分は「クロレラ・カラハリスイカ」に含めております。単位は百万円、赤色は前期比減少項目

企業理念の実現 ～バングラデシュにおける取組み

BangladeshにおいてユーグレナGENKIプログラムをローンチ

Bangladeshの子供達にミドリムシ入りクッキーを配布するプロジェクトを実施中。今期は現地での商業展開に向けた市場調査も着手予定

世界の子どもに栄養を ユーグレナGENKIプログラム



実施概要

配布物	ミドリムシ入りクッキー (1食分=6枚入り1袋、 約230kcal/約50g)
実施 期間:	2014年4月より、休日を除く週6日 (1日1食、期限無し)
実施 場所:	ダッカ(Bangladeshの首都)のNGOが運 営する小学校(5校/約2,000人から開始)
対象者/ 配布数:	上記小学校に通う児童 (初年度計画約2,500人/約60万食)
仕組み:	当社及び協賛企業対象商品1個につき 10円を寄付
専用HP:	http://www.euglena.jp/genki_program/



出雲からクッキーを直接手渡し



5月に来日した
 Bangladesh
ハシナ首相に
出雲からご挨拶
(JETROセミナー)



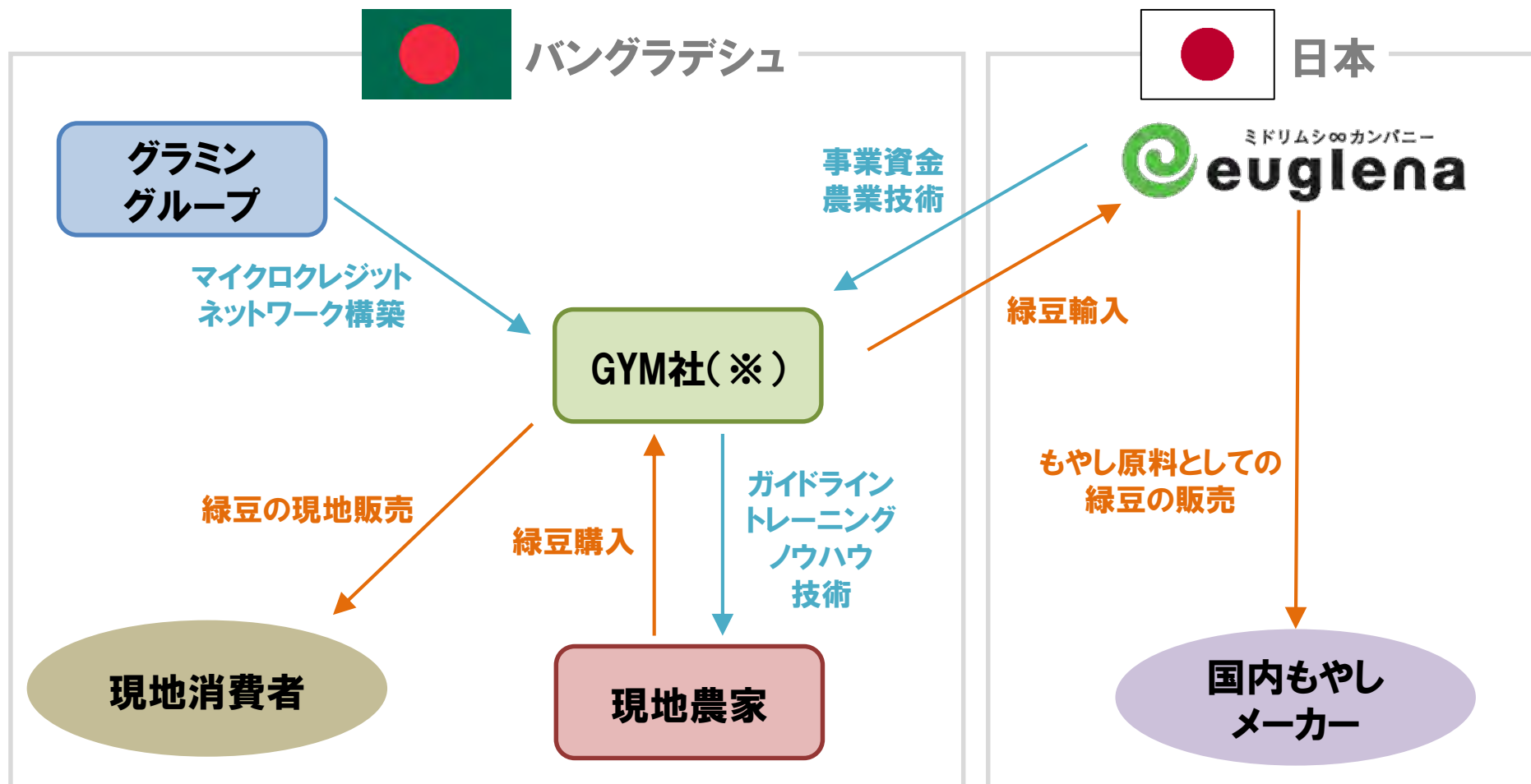
現地のオープニング・
セレモニーでのスピーチ



9月の安倍首相
 Bangladesh訪問団
に出雲が参加

バングラデシュにおける緑豆栽培ソーシャルビジネスの開始

当社と同じ価値観・使命感を持つ緑豆栽培ソーシャルビジネス合併会社の株式等取得を合意。今後当社への収益貢献も見込む



(※) GYM社の正式名称はGrameen Yukiguni Maitake Ltd.。当社はGYM社の普通株式(49.9%)・優先株式(100%)およびGYM社に対する前渡金の返還請求権を譲受予定。現在、現地当局の譲渡承認待ちで、譲渡完了次第社名をグラミン・ユーグレナ社に変更予定

【ご参考】

株式会社ユーグレナの会社紹介

会社概要

設立	2005年8月9日	
本店	東京都文京区後楽二丁目6番1号 飯田橋ファーストタワー31階	
資本金	47億9,649万円	2014年9月末
売上高	30億4,634万円	2014年9月期
従業員数	連結:89名、単体:60名(正社員のみ)	2014年9月末
経営理念	人と地球を健康にする	
経営 ビジョン	バイオテクノロジーで、昨日の不可能を今日可能にする	
上場市場	東京証券取引所マザーズ	
証券コード	2931	
単元株	100株	

ユーグレナ研究のきっかけ

Q: 私たちは、何故ユーグレナの研究、事業化を目指したのか。



**A: 社長である出雲が大学時代に行ったバングラデシュにて
栄養失調の問題を目の当たりにし、それを解決するために
栄養豊富な食料を作ろうと考えたため。**

微細藻ユーグレナとは

属名: Euglena(ユーグレナ)
和名: ミドリムシ

5億年以上前に、原始の地球で誕生した生物の1つ

体長約30 μm から50 μm 、幅約10 μm で、鞭毛を持ち動き回ることができる

水中の有機物、無機物を体内に取り込む特徴を持つ

植物性栄養素と動物性栄養素の両方を含む59種類の栄養素を持つ

強い二酸化炭素耐性を持つ

細胞壁がない

体内に油脂を生成する

ユーグレナの独自成分
パラミロンを持つ

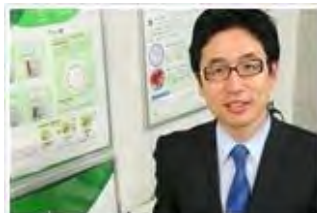


世界初、ユーグレナの大量培養技術の確立

2005年12月に世界で初めて、東京大学を中心とした藻類研究を実施する大学と連携し、ユーグレナの大量培養の技術の確立に成功



研究開発 @ 東京大学



東京大学農学部
創業メンバー



2005年当時の設備(現在は違う設備)
実証 @ 沖縄県石垣島

グループの拡大と研究体制の充実

当社グループは規模・拠点数ともに大幅に拡大。中央研究所の移転も完了し、研究スペースも倍増



GREEN BRAND

緑をつくり、育む。



研究開発パートナー

ミドリムシの大量培養技術をコアに、様々な機能性解明、事業化を目指し、下記の大学、民間企業と共同研究、共同実験体制を構築



基本戦略ーバイオマスの5F

米の5F(例)



↓ 低い

ミドリムシの5F



エネルギー・環境事業

JX日鉱日石エネルギー
日立製作所
全日本空輸
東京センチュリーリース
いすゞ自動車

燃料



飼料



伊藤忠商事

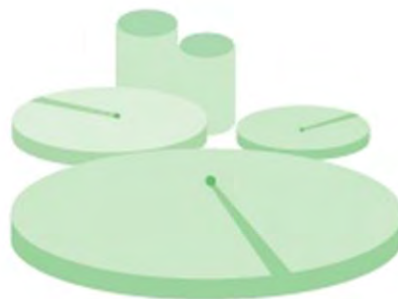
火力発電所など

住友共同電力

水質浄化設備

清水建設、佐賀市

ミドリムシ∞カンパニー
euglena



ユーグレナの大量培養技術

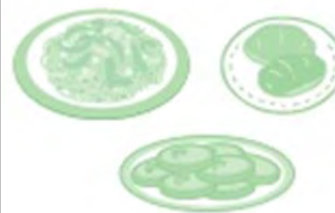
ヘルスケア事業

機能性食品



伊藤忠商事、電通、
武田薬品工業

食品



イトーヨーカドー
ファミリーマート
ユニグループ

化粧品

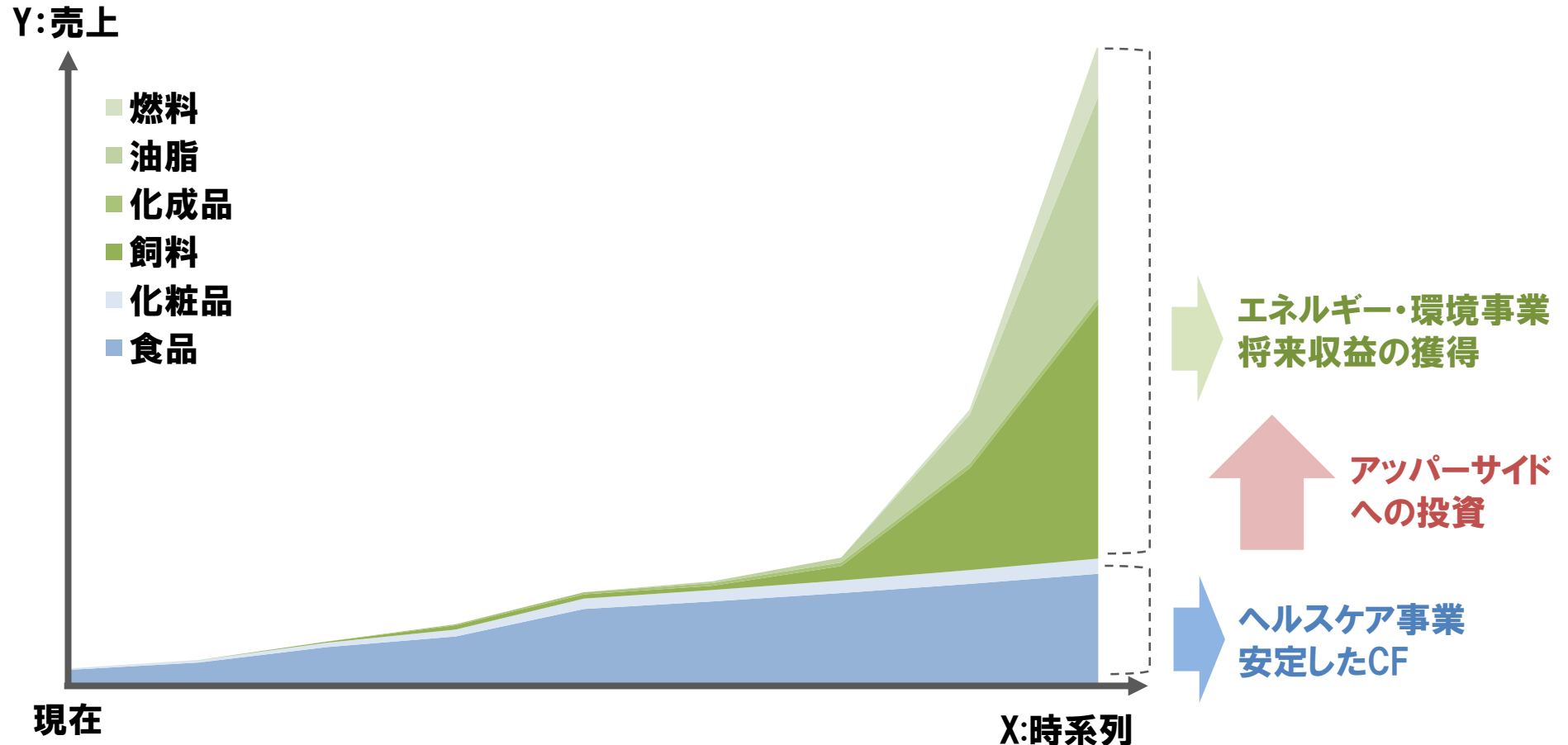


日本コルマー、ソシエ

※掲載企業は各事業におけるパートナー／資本提携先

成長戦略－安定したCF(キャッシュフロー)とアッパーサイドへの投資

ヘルスケア事業の一層の成長によって、安定的なキャッシュフローを創出し、将来収益性の高いエネルギー・環境事業に対して投資します。エネルギー・環境事業においてはコスト低減によって新たに創出される市場収益から得られる収益を積分し、将来価値を高める研究を推進します。



※上記グラフはイメージであり、実際の売上推移を必ずしも示すものではありません

ユーグレナ食品の強み－栄養素

○59種類の栄養成分

<<ビタミン>>
 α-カロテン
 β-カロテン
 ビタミンB1
 ビタミンB2
 ビタミンB6
 ビタミンB12
 ビタミンC
 ビタミンD
 ビタミンE
 ビタミンK1
 葉酸
 ナイアシン
 パントテン酸
 ビオチン

<<ミネラル>>
 亜鉛
 リン
 カルシウム
 マグネシウム
 ナトリウム
 カリウム
 鉄
 マンガン
 銅

<<アミノ酸>>
 バリン
 ロイシン
 イソロイシン
 アラニン
 アルギニン
 リジン
 アスパラギン酸
 グルタミン酸
 プロリン
 スレオニン
 メチオニン
 フェニルアラニン
 ヒスチジン

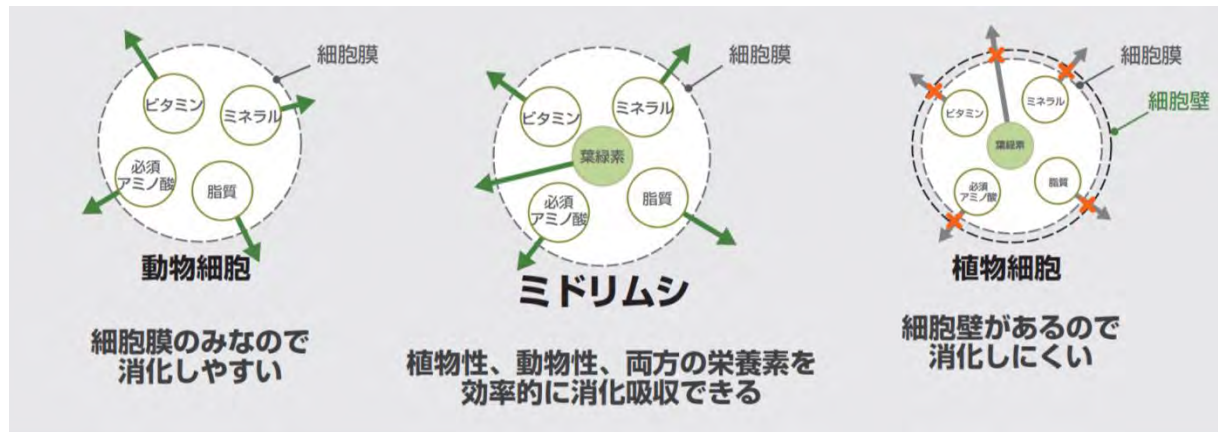
チロシン
 トリプトファン
 グリシン
 セリン
 シスチン

<<その他>>
 β-グルカン
 (パラミロン)
 クロロフィル
 ルテイン
 ゼアキサンチン
 GABA
 スペルミジン
 プトレッシン

<<不飽和脂肪酸>>
 DHA
 EPA
 パルミトレイン酸
 オレイン酸
 リノール酸
 リノレン酸
 エイコサジエン酸
 ジホモγ-リノレン酸
 アラキドン酸
 ドコサテトラエン酸
 ドコサペンタエン酸

分析元：財団法人 日本食品分析センター

○栄養成分の吸収性

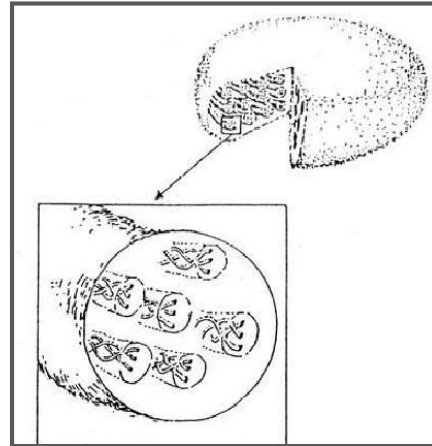


ユーグレナ食品の強みーパラミロン

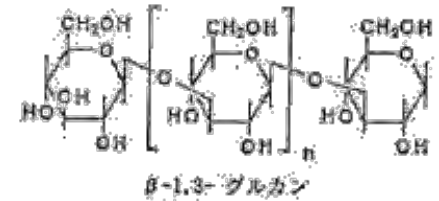
パラミロンはミドリムシしか持っていない食物繊維の一種です。吸油性に優れており難消化性であるため、吸収されずそのまま外へ排出されます。パラミロンがもつ効能もユーグレナの食品としての特徴です。



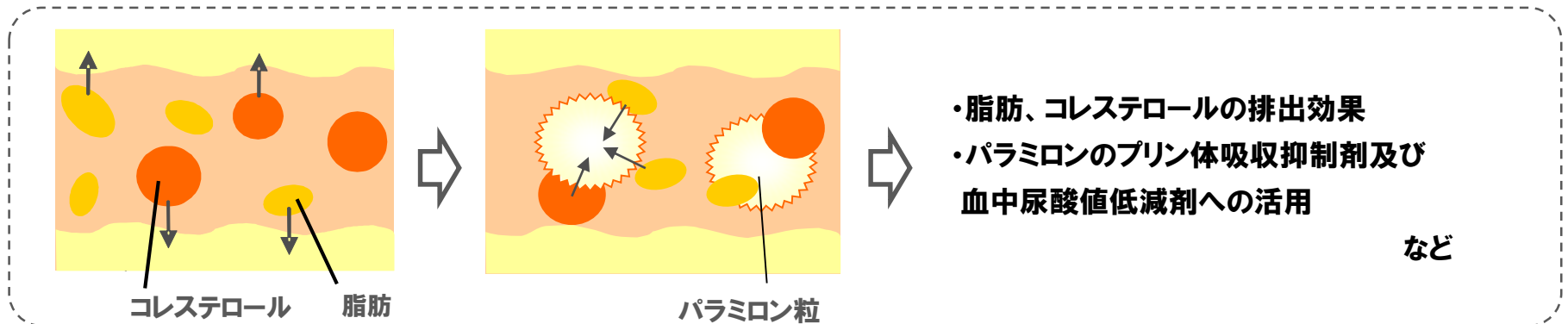
撮影：青山学院大学 福岡伸一教授



▲パラミロンの粒子構造
(Marchessault and Deslandes, 1979 より引用)

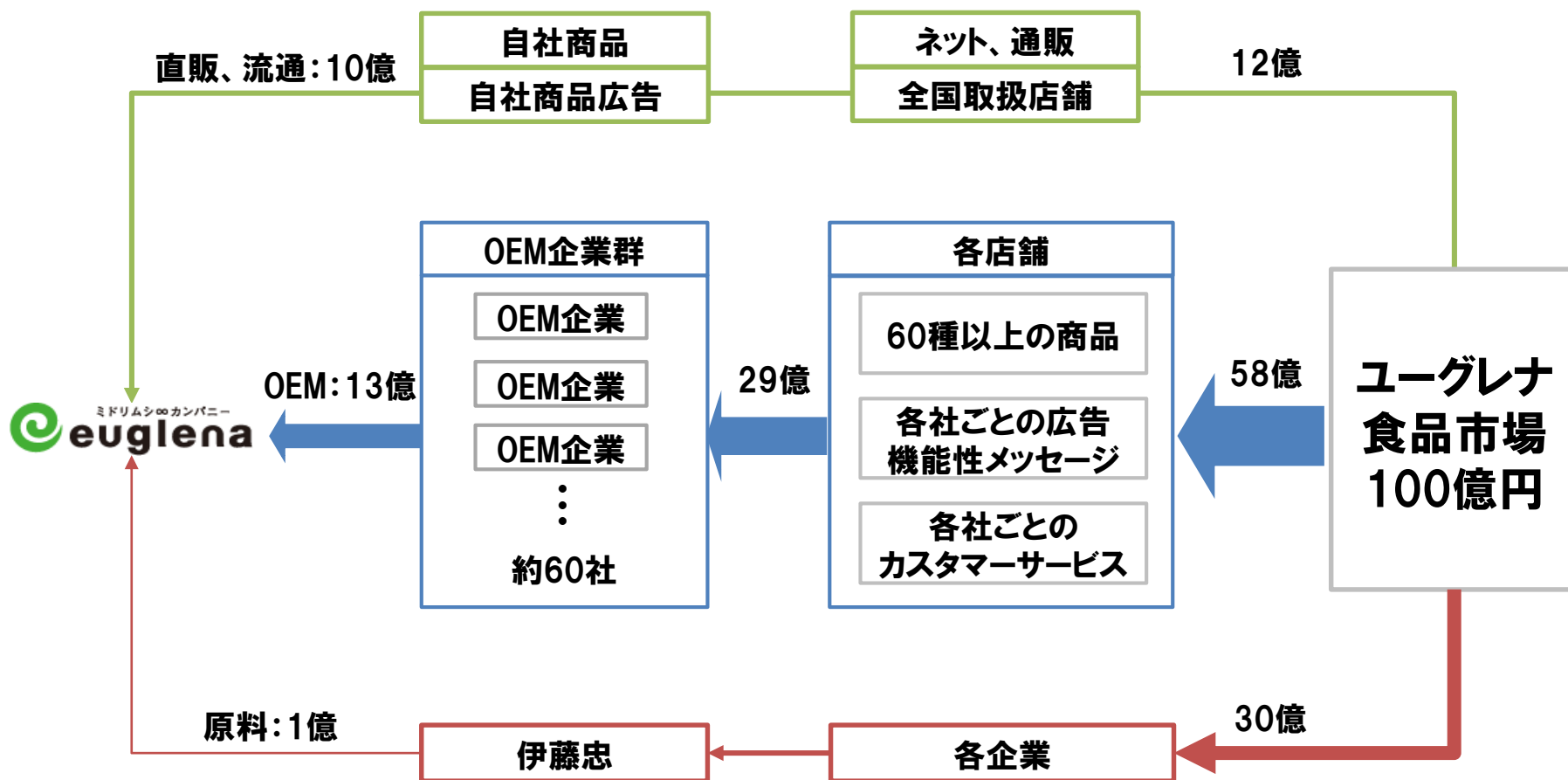


▲パラミロンの構造



2018年経営目標－国内食品事業のモデル変換

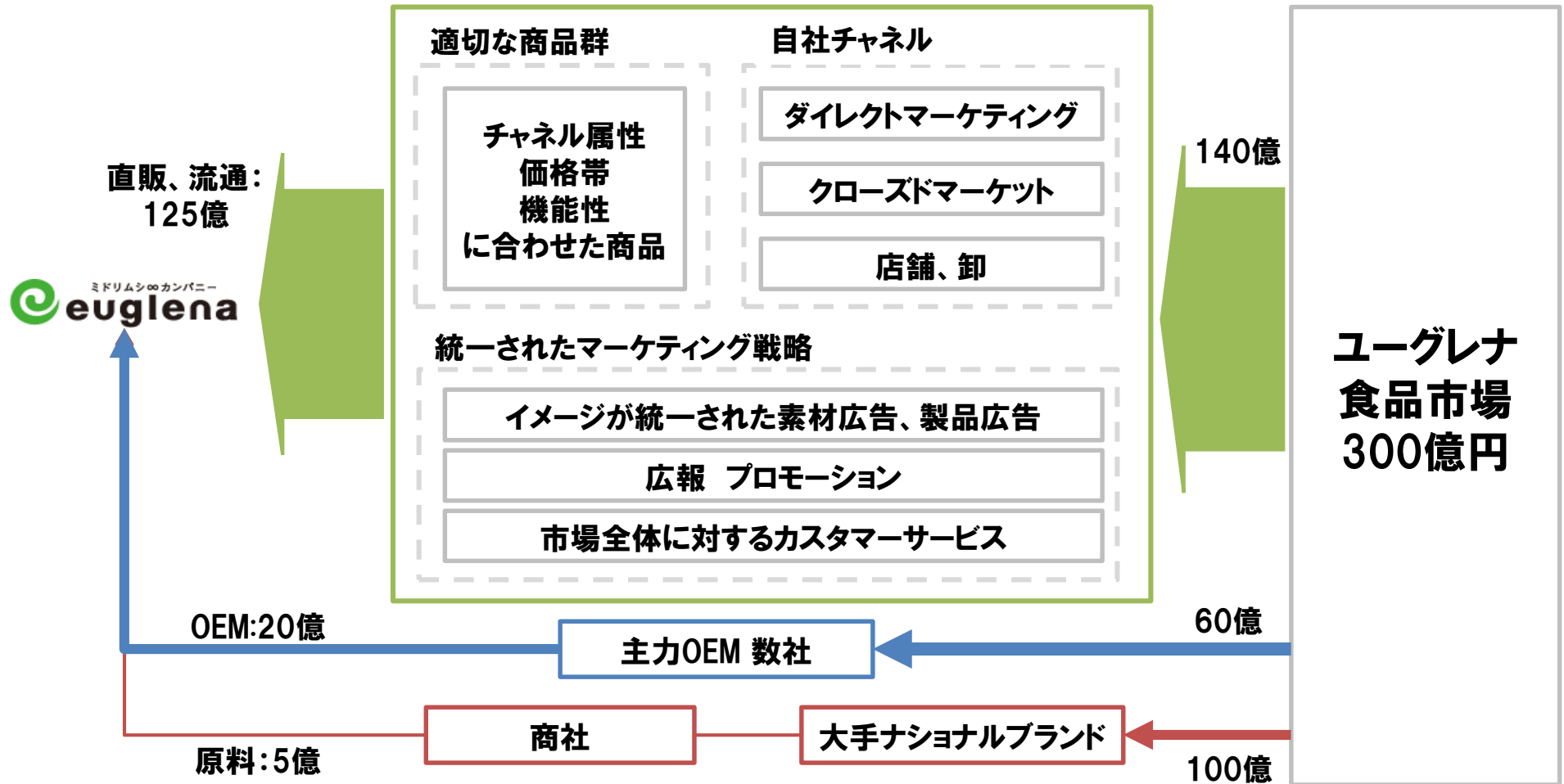
【現在】100億円の市場から24億円の売上



注: 当社の売上以外の売上数値に関しては当社推定値であり、各企業・店舗の実態数値を表すものではありません。

2018年経営目標－国内食品事業のモデル変換

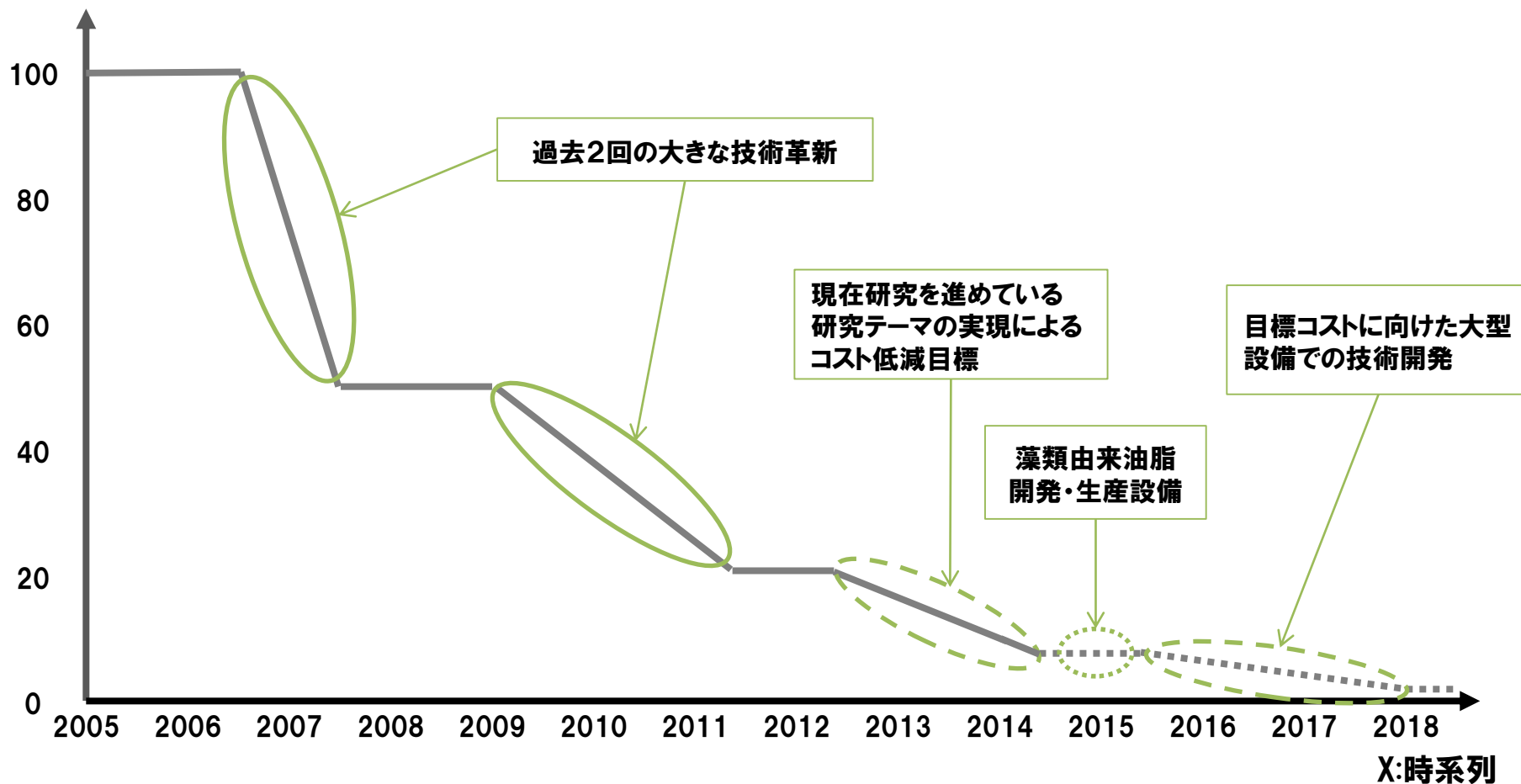
【2018年】300億円市場の創出と、市場から150億円の売上
国内ヘルスケア事業のみで営業利益30億円以上を目指す



2018年迄の技術開発ロードマップーユーグレナ生産コスト低減

公募増資の調達資金を藻類由来油脂開発・生産設備に投資する事で、バイオ燃料水準の低コスト生産技術の確立を目指す

Y:コスト(重量単価)

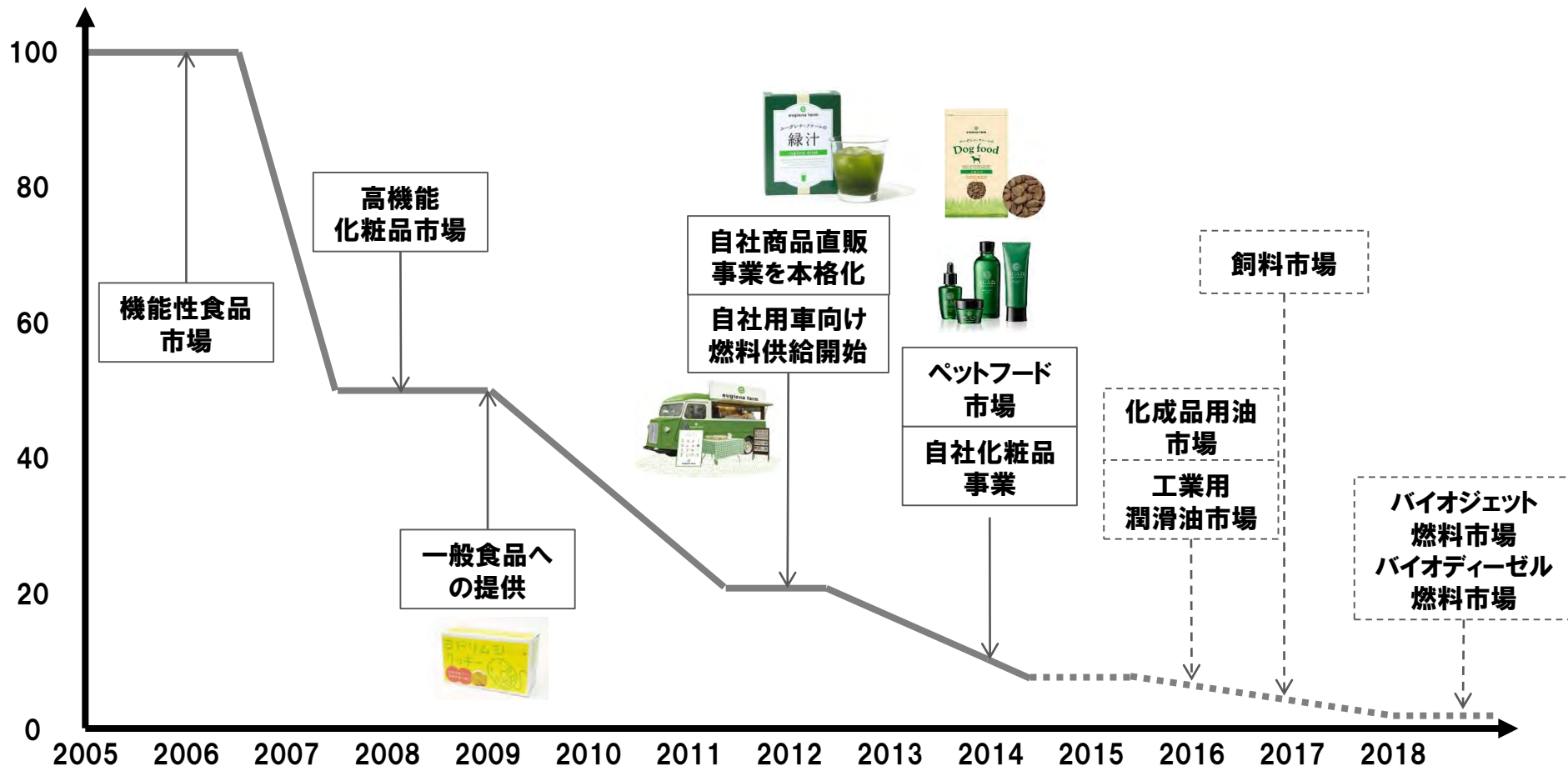


注:コストは2005年、世界初の大量培養成功当時を100としています。

2018年迄の技術開発ロードマップー研究開発により目指す新規市場

技術開発設備による低コスト化と抽出・精製プロセスの獲得に従い、5Fに従ったユーグレナ市場の拡大を目指す

Y:コスト(重量単価)



注:コストは2005年、世界初の大量培養成功当時を100としています。

X:時系列

58

DeuSEL® プロジェクト—DeuSEL® (デューゼル)とは？

いすゞ自動車とユーグレナの共同で商標を登録

DIESEL

ディーゼル燃料(軽油)

+

euglena

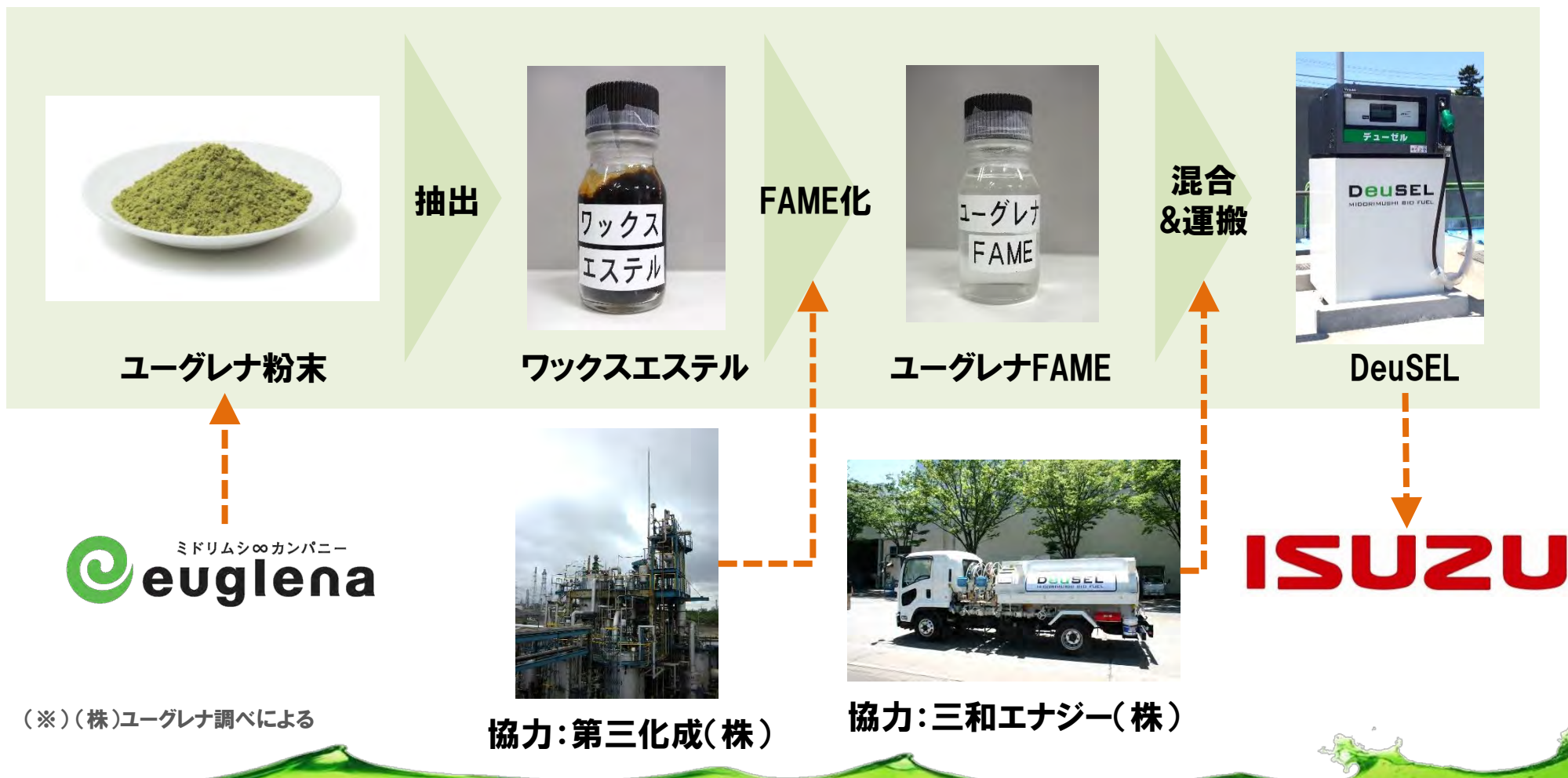
微細藻類ユーグレナ(和名:ミドリムシ)

DeUSEL

MIDORIMUSHI BIO FUEL

DeuSEL[®] プロジェクト—DeuSEL[®] の製造工程




世界初(※)、ミドリムシを原料とするバイオ・ディーゼル燃料製造に成功



ISUZU

DeuSEL® プロジェクトー当社にとっての意義

バイオ燃料事業の新たな柱としてバイオ・ディーゼルに注目

燃料の種類	バイオ燃料化のニーズ	ユーグレナ社のスタンス
 ガソリン 自動車	電気化・水素化など 代替エネルギーの選択肢が多い	研究は行うものの バイオ燃料開発としては 慎重な取り組み
 ジェット燃料 飛行機	高高度を長時間飛行するため 液体燃料からの脱却は困難で、 航空業界からのニーズも高い	これまでの燃料開発における 主ターゲットであり、将来の バイオ燃料事業の柱と位置づけ
 ディーゼル燃料 長距離輸送車など	出力と長時間稼働の必要性から 電気や水素などへの100%代替化が 困難で、潜在的ニーズは高い	以前より注目しており 将来のバイオ燃料事業における もうひとつの柱 を目指す

DeuSEL[®] プロジェクトーバイオ・ディーゼル燃料の研究方針

共同研究では2018年迄に次世代バイオ・ディーゼル燃料製造の技術確立を目指す

		分子構造	規格	原料	製造方法	特徴	
バイオ・ディーゼル燃料	従来型	FAME ⁽¹⁾ (脂肪酸メチルエステル)	国内B5規格 (5%まで軽油と混合可能)	パーム、菜種、大豆、廃食油、 ユーグレナ 、など	エステル交換など ⁽²⁾	ディーゼル燃料とよく似た特徴を持つが100%使用は実用に適さない	いすゞとの定期運行バスへの利用
	次世代	炭化水素 (HBD ⁽¹⁾ など)	国内では規格なし		水素化処理など ⁽²⁾	分子構造が軽油と同じで、技術的には100%使用も可能(Drop-in軽油)	いすゞとの共同研究テーマ
通常のディーゼル燃料(軽油)		炭化水素	JIS、品確法、税法などが定める国内規格あり	原油	蒸留など	ガソリンと比べるとCO ₂ の排出量が2~3割低く、日本においては税率も低い	

※1 FAME=Fatty Acid Methyl Ester(脂肪酸メチルエステル)、HBD=Hydro-generated Bio Diesel(水素化バイオ軽油)

※2 ミドリムシ原料の場合は別工程

バイオテクノロジーで昨日の不可能を今日可能にする。

